

2019（令和元）年度

事業報告書

学校法人 大阪歯科大学

は じ め に

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛」と「公益」を基調とした100年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2019（令和元）年度においては、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指し各種事業を推進した。

歯学部においては、学生の受け入れでは、広範な入試広報活動の結果、安定した入学志願者数により定員充足を達成した。教育では、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、歯学系共用試験、臨床実習の成績向上に取組み、歯科医師国家試験に関して、新卒者合格率85.3%という好成績を収めることができた。

大学院歯学研究科においては、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部においては、学生の受け入れ活動を積極的に行い、定員の充足を図った。本学附属病院で早期臨床体験学習の実施、歯学部と同様にODUソーシャルコミュニティを開設した。

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）においては、口腔科学に関する教育・研究者の能力、技能、見識を備えた人材養成を目指しており定員を充足した。また、課程開設初の学位（修士（口腔科学））取得者が誕生した。

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）の設置が認可され、2020年度の開設に向け学生募集活動を行った。

本学の教学改革の取組みは、令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1：特色ある教育の展開）への採択となって実を結んだ。

国際交流については、グローバル大学に相応しい教員・学生研修派遣を展開し、2019年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）に採択された。

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界的な流行となったが、本学から一早く中国湖北省の武漢大学口腔医院にサージカルマスク1万個及びサージカルガウン150着の支援物資を提供した。

枚方産学公連携プラットフォーム（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学、枚方市、北大阪商工会議所、資生堂ジャパン(株)及び(株)Morondoで構成）については、各種事業に積極的に参画した。

附属病院においては、理事会傘下の病院組織改革委員会の検討を受け、医療の質向上と経営効率化に向けて取り組んだ。院内に大阪国際先制医療センターを設け、先制医療をはじめとする最先端の診療やセミナー開催などを行うこととなった。大阪歯科大学歯科衛生士研修センターでは、第3期の研修が無事終了した。

以上、今後とも教育・研究・臨床の一層の充実発展を目指していくものである。

第 1 部 事業の概要及び附属資料 ----- 3

第 2 部 財務状況の概要 ----- 4 8

第 1 部 事業の概要及び附属資料

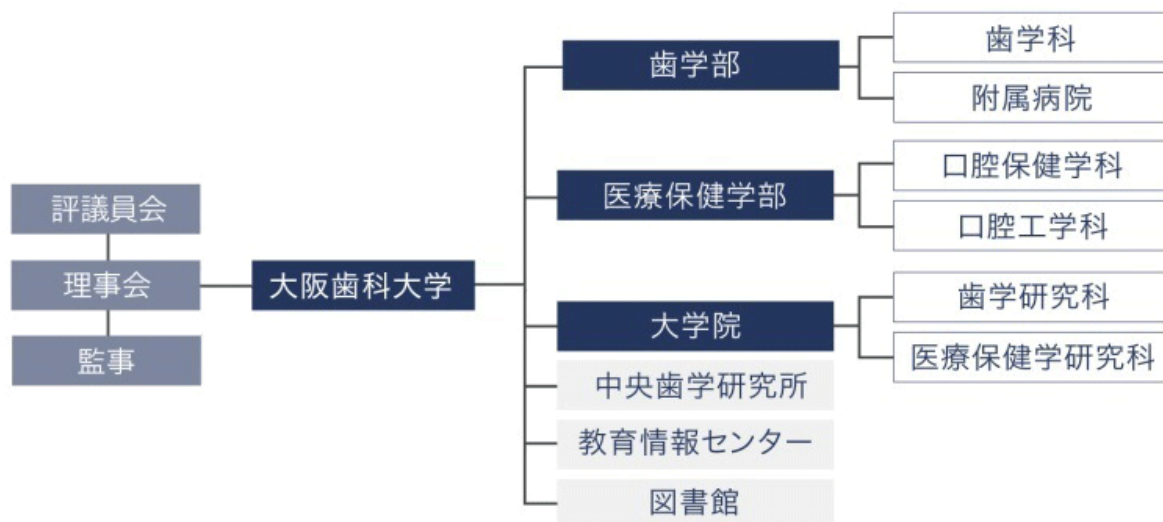
建学の精神

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕の人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

沿革

1911（明治44）年12月12日	大阪歯科医学校設立
1912（明治45）年1月14日	大阪歯科医学校開校式 （創立記念日）
1917（大正6）年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
1917（大正6）年9月25日	大阪歯科医学専門学校開校
1947（昭和22）年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立 （大学昇格記念日）
1951（昭和26）年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可
1952（昭和27）年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可
1961（昭和36）年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
1964（昭和39）年4月17日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）開設
1968（昭和43）年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1997（平成9）年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて3学舎体制となる。
2011（平成23）年11月11日	創立100周年記念式典挙行
2016（平成28）年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部（口腔保健学科、口腔工学科）設置認可
2017（平成29）年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）設置認可
2018（平成30）年3月31日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
2019（平成31）年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
2019（令和元）年11月19日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）設置認可

学校法人大阪歯科大学組織図（2019年度）



学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学

大阪府中央区大手前1丁目5番17号

大学・学部等名称及び所在地

大阪歯科大学歯学部

枚方市楠葉花園町8番1号

大阪歯科大学大学院歯学研究科

(楠葉学舎)

大阪歯科大学医療保健学部

枚方市牧野本町1丁目4番4号

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

(牧野学舎)

大阪歯科大学附属病院

大阪府中央区大手前1丁目5番17号

(天満橋学舎)

役員・評議員(2020年3月31日現在)

[順不同、敬称略]

【役員】 理事：定数7名以上11名以内 現員8名

監事：定数2名 現員2名

	氏名	現職・主な職歴・就任年等
理事長	川添 堯彬	大阪歯科大学学長(2007.10)
常務理事	下村 錢三郎	学校法人大阪歯科大学理事・評議員(2010.4)
常務理事	田中 昭男	大阪歯科大学副学長(2016.4) 歯学部長(2017.4)
理事	小正 裕	大阪歯科大学医療保健学部教授(2017.4)
理事	岡 邦恭	学校法人大阪歯科大学理事(2002.4)、歯科医師
理事	橋本 猛伸	学校法人大阪歯科大学理事(2006.4)、歯科医師
理事	前田 眞治	学校法人大阪歯科大学理事(2014.4)、歯科医師
理事	上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員(2014.5) 学校法人大阪歯科大学理事(2018.4)
監事	本井 文夫	学校法人大阪歯科大学監事(2014.4)、弁護士
監事	生駒 等	学校法人大阪歯科大学監事(2018.4)

【評 議 員】定数 30 名以上 40 名以内 現員 40 名

○選任区分 氏名

○本法人理事会理事互選（2名）

川添 堯彬（理事長）、岡 邦恭（理事）

○本学教授会推薦（歯学部教授 12名）

池尾 隆、清水谷公成、山本 一世、松本 尚之
岡崎 定司、藤原 眞一、梅田 誠、有田 憲司
辻林 徹、今井 弘一、前田 博史、馬場 俊輔

○本学同窓会推薦（本学卒業生・歯科医師 16名）

松田 毅、土居 桓治、岡本 学、久富 明宏
藤井 征、澤田 隆、和手 甚京、城村 幸治
酒井 昭則、奥井 寛、恩田 信雄、加藤 信次
太田 謙司、窪 盛偉、大塚 俊裕、岡田 太郎

○本法人理事会推薦（本学卒業生 10名）

玉置 敏夫、下村錢三郎、鈴木 實、河合 正治
北條 博一、上田 雅俊、末瀬 一彦、和唐 雅博
柿本 和俊、吉本 一馬

学生の状況（2019年5月1日現在）

（名）

設置学部等	修業 年限	入 学 定 員	入 学 者 数			収 容 定 員	在 籍 者 数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6	160	57	71	128	960	835
医療保健学部	4	100	9	84	93	300	230
口腔保健学科		70	0	77	77	210	188
口腔工学科		30	9	7	16	90	42
大学院 歯学研究科 博士課程	4	30	25	13	38	120	121
大学院医療保健 学研究科 （修士課程）	2	10	1	11	12	20	25
合 計		300	92	179	271	1,400	1,211

教職員数（2019年5月1日現在）

専任教員数（大学歯学部・医療保健学部）	201名
計	201名
専任職員数（法人本部）	3名
（大学歯学部・医療保健学部）	159名
計	162名
<hr/> 専任教職員数合計	<hr/> 363名

大阪歯科大学

大学全体での取り組み

・大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。

・歯学部の第1学年から第4学年までと大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎にて、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動が行われている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪市中央区の天満橋学舎にて行われている。

・大学・大学院全体の教学マネジメント組織として「大阪歯科大学協議会」を適宜開催し、IR情報に基づく教育課程の適切性（アクティブ・ラーニングの導入）の検証を行った。この協議会では、「教育の内部質保証」について、2019年11月の文部科学省・中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に基づいた「教学マネジメントの確立」と「学修成果の可視化と情報公表」が必須事項となり、本学においても具体化すべく検討を行った。さらに本学における「内部質保証の方針」「教育研究組織の設置方針」「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会貢献・社会連携の方針」「管理運営の方針」について検討を行った。

・多様な教育体制の展開のため、大阪歯科大学学部等横断カリキュラム検討委員会が2019年9月に設置された。委員会の目的は、本学の全学的な視点や分野・学部等を超えた横断的な視点からのカリキュラム編成を推進するためであり、その審議事項としては、両学部共通の教育目標の設定及び計画に関する事項や、カリキュラムの効果と評価に関する事項となっている。

・2014年度の大学基準協会認証評価（大学評価）時の改善勧告・努力課題への対応について、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。その中で改善勧告については、「大学学則」「大学院学則」及び関係規程の整備をすみやかに行った旨報告した結果、2019年5月9日付で大学基準協会から「改善報告書検討結果」として「今後の改善経過について再度報告を求める事項」は「なし」であった旨通知があった。

一方、努力課題（歯学研究科3件、歯学部1件）については、本学全体として一層の改善改革を行うものである。努力課題（概要）としては、歯学研究科は、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせた教育課程とはいえないこと、科目の配当年次について規定されていないこと、学位審査論文基準について『大学院歯学研究科ハンドブック』への掲載について実行に移すことである。歯学部は、学生の受け入れについて、収容定員に対する在籍学生比率が高いことである。鋭意改善に向けて取り組んでいくものである。

・学校法人関係では、2020年4月1日改正の「私立学校法」を受け、「学校法人大阪歯科大学寄附行為」の改正及び「役員の報酬等の基準に関する規程」の制定に向けて取り組むとともに、認証評価に基づいた法人（大学）全体の「中期計画」の策定に鋭意着手しており、2020年度から5カ年の道筋を示すことになっている。

歯学部・歯学研究科

歯学部の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な訂正 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性
- 一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

歯学部の教育改革

歯学部においては、教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に適う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。

1. 入学志願者増加への取り組み

アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。

アドミッションセンターは、アドミッションセンター長（副学長・教務部長兼任）と事務職員で構成され、入試委員会による決定を受け、オープンキャンパス、高校・予備校訪問、進学相談会、WEBバナー等の情報メディアを通じた広報活動を積極的に展開した。

オープンキャンパスについては、楠葉学舎で7月、9月にそれぞれ1回、天満橋学舎で8月に1回、合計3回行われ、延べ参加人数は474名であった。楠葉学舎でのプログラムは、本学学生による講演、入試概要説明、実習体験、予備校講師による入試対策講座、キャンパスツアー、個別受験相談会を実施した。さらに、2015年度から始まった本学附属病院を会場としたオープンキャンパスは、通算6回目であり入試概要、予備校講師による特別講演及び院内見学を行い、102名の参加で好評であった。

アドミッションセンター職員による訪問校は332校（高校81校、予備校251校）、訪問地域は、近畿2府4県、四国4県、東京都、埼玉、横浜、静岡、名古屋、広島、岡山、

福岡、鹿児島となっている。

また、2020年度入試（2019年度実施）は、第2回目のインターネット出願を実施し、受験生の利便性の向上を図った。

入試科目については、推薦・一般入試において、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語（英語）」の受験免除制度を昨年度に引き続き実施した。（スコアに応じて80点または90点を付与）

（注）英語の各種資格・検定試験について

英語資格・検定試験	80点に換算	90点に換算
英検®（CBT含む）	2級	準1級以上
Cambridge English	140以上	160以上
GTEC	1070以上	1190以上
TOEIC®（L & Rのみ）	550以上	700以上
TOEIC®（L & R + S & Wの合計）	790以上	1095以上
TOEFL iBT®	55以上	72以上
TEAP（4技能）	225以上	309以上
TEAP CBT（4技能）	420以上	600以上

・GTECはオフィシャルスコア（検定受験の成績）のみを認める。・TOEIC ITPテスト、TOEIC L&R IPテスト・TOEIC S&W IPテストは対象とはならない。・TOEFL iBT®はMyBest™スコアも認める。・いずれも取得時期は問わない。

大学入試センター試験利用入学試験では、昨年度同様にセンター試験オプション方式＜プラス1＞を新たに実施した。本学一般入試の得点に、センター試験受験科目の6教科（外国語、数学①・②、国語（近代以降の文章）、理科②、地理歴史、公民）より高得点1（2）科目の得点を合計し、合否を判定するものである。

また、入試の試験場は、昨年度と同様に一般入試（前期日程）において、東京会場（駿台予備学校お茶の水1号館）、名古屋会場（代々木ゼミナール名古屋校）、広島会場（TKPガーデンシティ広島）、福岡会場（代々木ゼミナール福岡校）を設置した。一般入試（後期日程）は、東京、福岡を開設した。

入学試験成績優秀者特待生制度については、その充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。一般入試及び大学入試センター試験利用入試においての措置で、概要は以下のとおりである。

〔A種（初年度学納金（入学金を除く）免除）〕

免除額：515万円、2年次以降は授業料全額免除：380万円×5年、対象人数1名、2年次以降は優秀な成績を維持することを条件）

〔B種（初年度は学納金（入学金を除く）免除）〕

免除額：515万円（2年次以降は在学中の学業成績優秀者に対し年間授業料から100万円免除、対象人数15名：B種の対象人数は昨年度25名から15名に減となった。）

2020年度入試における私立歯科大学・歯学部に対する志願者数は全体的な減少傾向であったが、本学への志願者数は順調に推移し、募集人員である128名を充足した。本

学の地道な入試広報活動が実を結んだ結果であると考える。

2011（平成23）年度（2012年度入試）から実施されている編入学試験では、4名が第2学年へ編入となった。

2. 高大連携の取り組み

香里ヌヴェール学院高等学校1年生22名が6月14日に楠葉学舎に来学し、歯学部の細菌学講座による細菌学実習を体験した。

3. IR（インスティテュート・リサーチ）室の活動

学修成果を可視化するためホームページにIR情報を掲載した。内容としては、次のとおりである。

【歯学部・医療保健学部】学生授業評価結果

【歯学部】学習実態調査、歯科医師国家試験合格実績、第4学年学習成果

【医療保健学部】学習実態調査、入学前教育の学習成果

また、歯学部において、2018年度卒業生に対するアンケート調査（ホームページに掲載）、過年度の卒業生に対し教育成果に関するアンケート調査、2019年度全学年学習実態調査を実施した。今後、この結果を受けて教育活動の改善に向けて検討を行っていくものである。

また、学校教育法第105条に基づく科目群履修認証制度を活用し受講や他大学（京大文教大学）との相互研修の実施を通じたIR職員の資質向上を行った。

4. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、建学の精神の具現化に努めた。態度教育科目の「コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は、第1学年から第4学年まで横断的に開講した。

その中で、特に「ODUソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」の中で、第1学年から第4学年までの全学生が、学長及び教職員とともに枚方市の主催する環境美化活動であるアダプトプログラムに登録し、朝8時から楠葉学舎周辺の歩道での清掃及び通行する地域住民の方々に挨拶を行った。学生の皆出席を義務づけ、欠席者には予備日に振り替えて実施し、参加態度はもちろんのこと、総合的に成績評価を行った。2019年4月から、第5・6学年も天満橋学舎周辺の清掃活動を開始した。

また、新しい教育の形であるアクティブ・ラーニング科目について、その開講比率は学年全体で52.9%に及んでいる。

第1学年次の「コミュニケーションⅠ」は、「履修指導」「ホームルーム」「学長と語ろう」「The 3rd Forum for International Students（略称FIS：アジア5大学と本学学生、大学院生の研究発表を全て英語で行うフォーラム）」等の受講を通じて自学自習や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指している。

「人権論（1単位）」「社会福祉施設体験学習（2単位）」「早期臨床体験学習（1.5単位）」は、引き続き学生の態度教育の柱として十分機能している。「現代教養」（3単位）では、

マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力、オナーズ教育などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的にしている。その中では、漢字検定準2級受検やTOEICの受験を実施した。情報リテラシー教育としては、「情報科学」(2単位)を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性と対処法を学んでいる。

第2学年次の「態度教育」である「コミュニケーションⅡ」は、ホームルーム、解剖体慰霊祭、実験動物慰霊祭、ODUソーシャルコミュニティ、FISを通じ、医療従事者として、ふさわしい態度、意識を身につけることを目的としている。また、「問題解決基盤」は、アクティブ・ラーニング科目の一つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行うものである。

第3学年次の「ゼミナール」(2単位)、「研究チャレンジ」(2単位)は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、学生が参加しているSCRIP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)もしくは専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。

第4学年次では、全国共用試験歯学系CBT、OSCEを臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制の強化を行い成績の向上を図った。特に成績下位者には合宿形式の重点的学習を行い弱点の強化を行った。「臨床系歯科医学教育」「総合医学系教育」「歯科医学統合講義」を実施した。なお、DESSモバイルは、第4、5、6学年への自学自習のツールとして活用している。

第5学年においては、臨床実習必携を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム(POS: Patient Oriented System)に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行った。2019年4月に制定されたスチューデントデンティスト認定制度に、第5学年全員が認定を受け、各自に「Student Dentist 認定証」を交付し、臨床実習時には携行することとなった。診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアルは、12月5日に「臨床実地試験」が本学附属病院で、また12月14日に「一斉技能試験」が楠葉学舎でそれぞれ実施され、第5学年全員が受験した。

本学のオナーズ教育の一環としての「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIPへのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッスン料をサポートするもので、2019年度は14名が取り組んだ(2018年度は11名)。

第6学年は、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努めきめ細かな指導(特別アドバイザーによる弱点

の克服方法のフィードバック、ティーチング・アシスタント（TA）による学修補助等）を行った結果、第113回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が85.3%となり全国平均を超えた。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

<新卒者合格率>

[区分]	[合格者数/受験数]	[合格率全国平均]
2020（令和2）年3月 第113回	85.3%（58人/68人）	79.3%
2019（平成31）年3月 第112回	80.4%（78人/97人）	79.4%
2018（平成30）年3月 第111回	82.2%（74人/90人）	77.9%
2017（平成29）年3月 第110回	91.4%（74人/81人）	76.9%

5. 学習環境の整備

各学年について、教員が楠葉学舎及び天満橋学舎の研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるオフィスアワーを設けた。

教務関連機器については、歯科技工用モーター、楠葉学舎の第1～第4講義室AV設備の更新を実施した。

6. 学生生活指導体制

各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生のTAにより日々指導が行われている。「学生カルテ」を活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を行った。特に「育み教育」「寄り添い教育」による支援が必要な学生については、徹底した個人指導を行った。

「ODUソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」であり、第1学年から第4学年までの全学生の参加が必須である。

朝の挨拶運動は、2015年度から教授を含めた全ての教員が輪番制で、楠葉学舎正門前に立ち、登学する学生に対して行っており、今年度も人間関係の基本である挨拶の重要性を認識させるとともに、学生と教員の信頼関係の構築にも役立った。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成して全学年に配付し、ホームルームの際にその活用を促した。

近年、若年層への薬物蔓延が深刻化していることを踏まえ、5月23日に第1学年を対象として枚方少年サポートセンターから講師を招き、薬物の危険性について「薬物乱用防止講演会」を開催した。

地震・災害時等の安否確認システム（ANPIC）を2018年12月から導入し、全体的に学生・教職員の状況をリアルタイムで把握することが可能になった。11月29日の楠葉学舎における防災・防火訓練は、歯学部第3学年の参加のもと上記システムを利用して実施された。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師1名が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。定期的に学生部長、教務学生課長、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向

けての協議を行った。

高等教育の修学支援事業については、歯学部・医療保健学部において2020年度からの実施に支障を来さないように関係規程（大阪歯科大学高等教育の修学支援制度による減免規程：2020年1月1日施行）の整備を行った。

7. 学生スポーツの振興

全日本歯科学学生総合体育大会は、国公立歯科大学・歯学部29校の体育系クラブが参加するスポーツ祭典である。この第51回大会（当番校：福岡歯科大学）が7月29日から8月10日まで開催され、本学は総合第5位であった。

8. 令和元年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学位認証式について

標記については、2020年3月6日に挙行を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行拡大に伴い、やむなく中止とした。なお、卒業生・修了者への卒業証書と学位記を従来の式の規模を縮小し、3月13日に川添理事長・学長から授与を行った。

大学院歯学研究科の改革

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。

1. 大学院生の入学者増加策等について

2020年度入試は、定員30名の中、40名の入学者であった。このうち、外国人留学生入学者の13名をはじめ、2016年度から実施した社会人特別入試での入学者は1名であった。

また、歯科基礎系専攻への志望者を確保する観点から、授業料の半額免除制度を継続し、この制度を利用して13名の基礎系志願者が入学した。

2. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成申請は、2019年度は5件あり、これに対して29万3500円の助成を行った。さらに大学院生の研究12件に対しても学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

3. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会確認後に同省に提出している。学内規程は、「大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」「大阪歯科大学における研究データ等の保管等に関する申し合わせ」を運用し、その徹底を図った。研究倫理教育として、これまで講義形式で「研究倫理講習会」を行っていたが、医の倫理委員会の「人を対象とする医学系研究に関わる講習会」

を一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングに変更したことに伴い、研究倫理教育もAPRINのeラーニングを利用することとした。また、大学院生には第1学年を対象に「研究倫理」の講義3コマ（1コマ90分）を行ったうえでeラーニングを受講することとした。

公的研究費についての管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会、監事の確認後に同省へ提出している。

4. 大学基準協会認証評価（大学評価）時の改善勧告・努力課題への対応

2014（平成26）年度の上記大学評価において、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。改善勧告を付された単位の計算方法が規則等に定められていなかったことについては、すみやかに「大学院学則」を改正し、さらに努力課題について見直しを実施する旨の改善報告を行った。

努力課題（概要）としては、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせた教育課程とはいえないこと、科目の配当年次について規定されていないこと、学位審査論文基準について『大学院歯学研究科ハンドブック』への掲載について実行に移すことであり、現在鋭意、大学院委員会において検討を行っている。

5. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として9名を採用し、資質向上を図るための研修を7月1日と9月12日に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、2名を採用した。

医療保健学部・医療保健学研究科

1. 設置の経緯・趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨とし、アドミッション・ポリシーを策定した。

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科におけるアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

【口腔保健学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人

- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・ 口腔の衛生管理に強い関心がある人

【口腔工学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 科学技術に関心がある人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人

2. 学生の受け入れ

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2019年度のオープンキャンパスを実施した。

【2019年】

第1回	3月17日(日)	牧野学舎	96名
第2回	5月26日(日)	牧野学舎	127名
第3回	7月14日(日)	牧野学舎	191名(入試対策講座開催)
第4回	8月13日(火)	天満橋学舎	137名(附属病院見学)
第5回	8月25日(日)	牧野学舎	179名
第6回	9月23日(月・祝)	牧野学舎	130名(入試対策講座開催)

以上 6回開催し、参加延べ人数は、高校生・保護者を含め860名であった。

(参考：昨年2018年は、7回開催し、参加延べ人数は646名。)

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に延べ333校の高校訪問、近畿・中四国を中心に72会場での進学相談会、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校62校の入試ガイダンスに参加した。

高等学校の進路指導教諭への入試説明会の開催、さらに進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載、広報チラシの近畿圏の延べ1000校を超える高等学校への送付など積

極的に広報活動を展開した。

そして、2020年度医療保健学部入学試験は、入試科目については、一般入試において、歯学部と同様に英語の各種資格・検定試験の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語（英語）」の受験免除制度を実施した。

また、入試の試験場は、一般入試（前期日程）において、昨年度に引き続き、東京会場（TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター）、広島会場（TKP ガーデンシティ広島）を設置した。

一般入学試験及び大学入試センター試験利用入学試験において、成績優秀な受験者は、学費の免除措置を実施した。

・口腔保健学科

A種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次 105万円、2年次以降学費免除 105万円×3年

4年間免除総額420万円、対象者1名

B種 初年度：入学金を除く学費免除 1年次 52.5万円

対象者4名

・口腔工学科

A種 初年度：入学金を除く学費免除

1年次 105万円、2年次以降学費免除 105万円×3年

4年間免除総額420万円、対象者1名

B種 初年度：入学金を除く学費免除 1年次 52.5万円

対象者6名

昨年度同様、2020年度入学者で下記に該当する対象者全員の学納金を減免免除することとした。

1) 近畿圏以外在住の入学者

三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山以外の在住者は、初年度の前期・後期授業料より12万円、合計24万円を本来の授業料より減免する。

2) 沖縄県在住の入学者

沖縄県の在住者は、1)の授業料を減免の上、更に入学金の20万円、合計44万円を本来の学費より減免する。

その他、海外協定校である四川大学華西口腔医学院との間に、ダブルディグリープログラムを締結した。

以上、積極的な入試広報活動の結果、医療保健学部の4期目の入学者数は、口腔保健学科74名、口腔工学科は28名（ダブルディグリープログラム1名含む）となった。

3. 学修への取り組み

医療保健学部では、前記のアドミッション・ポリシーのほか、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、様々な課題解決のため精力的に取り組んだ。

基礎科目として、「キャリア教育」、「教養教育」、「情報教育」、「語学教育」、専門基礎科目として「基礎系口腔科学」、「社会系口腔科学」、専門科目として「臨床系専門教育」、「総合医学教育」、「臨床教育」、「総括教育」の125単位が4年間の要卒単位数である。

歯学部と同様に「ODUソーシャルコミュニティ」と「早期臨床体験学習」も実施している。

「ODUソーシャルコミュニティ」では、医療人としてのボランティア精神を涵養するため、第1、2学年学生と教職員が牧野駅周辺の清掃活動及び地域住民の方々へ朝の挨拶を行った。また、本学附属病院での「早期臨床体験学習」は、第1学年次の基礎科目のキャリア教育として、卒業後の歯科技工士、歯科衛生士としての役割の一つである多職種連携へのモチベーションを高めるために大いに役立った。

口腔工学科においては、天満橋学舎の「デジタル加工室」において、2019年度から第3学年を対象に「CAD/CAMシステム」による教育を行っている。

全学生へのタブレットPCの貸与を生かし、学修支援ポータルサイト「A-portal」による最新の授業時間割、試験関係のお知らせの配信、授業用SNS「melly」を使ったタイムラインによる科目担当教員からの注意事項や、学生からの質問受付、課題提出が容易に行えるシステムを最大限に活用した。

なお、アクティブ・ラーニング科目について、その開講比率は42.8%となっている。

学生生活の指導体制として学科・学年別に「指導教授」と「助言教員」が置かれ、学生の学修状況に応じたアドバイスや指導を行った。また、学生支援室を置き、学業だけでなく生活面、健康面など学生生活全般にわたったきめ細かな支援を行った。

オフィスアワーを設けて、学生からの授業に関する質問を受け付ける体制を整備したほか、学生が快適に学習できるように、コンピュータ演習室、図書館牧野分室にそれぞれ自習スペースを設け、試験期間中の休日、学生ホールを自習室として開放した。

就職、進学に関する支援を行うキャリアセンターでは、就業体験事業、総合病院など医療機関見学会、企業等から講師を招いての業界研究セミナー、その他ESセミナー、小論文セミナー、グループディスカッションセミナーなど各種セミナーを実施し、第1期生の就職活動が本格化することを踏まえ、本学に直接届く求人票を検索・閲覧できる求人検索NAVIの運用を開始した。

4. 学部独自の取り組み

1) 第2回国際口腔保健工学コンソーシアムへの参加

2019年11月、口腔工学科2年生1名が、台北医学大学で開催された『2nd Meeting of International Oral Health Engineering Consortium』において、「Towards Oral Health Engineer」というタイトルで発表を行った。

2) 社会連携活動

2019年6月には、枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行い、7月には、枚方市内の小学生を招いての第2回「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催するなど、社会連携に取り組んだ。

3) 第3回、第4回生涯学習セミナー

第3回生涯学習セミナーは、外部講師を招いて、2019年5月18日、ドイツの歯科技工士マイスターの資格を持つ大川友成氏が「患者さんの笑顔がみえる歯科技工士を目指して～ドイツの最新歯科事情～」をテーマに講演、第4回は12月14日、医療法人敬英会・社会福祉法人敬英福祉会の光山 誠理事長が「超高齢社会に求められる歯科医療人材について～地域包括ケアの実現に向けて～」をテーマに講演を行った。

5. 大学院医療保健学研究科

医療保健学部を基礎とする大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が、2017年8月に設置認可となった。同研究科は、高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2020年度入試では、定員10名を確保した。

口腔科学専攻（修士課程）の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2020年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は10名であった。

一方、大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）は、2019年11月19日付で文部科学大臣より無事設置認可を受けた。教育課程は、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類し、体系的に教育を行うこととなっている。歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、速やかに学生募集活動を行った結果、2020年度入試では、入学定員3名のところ9名の入学者を確保した。

研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2020年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会を9月24日、25日の2回開催した。

2. 知的財産関係

2019年度は、出願済み特許の審査請求1件であった。

3. 医の倫理委員会（委員長：附属病院長）関係

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として、APRIN eラーニングを導入し、教職員の受講希望者に受講させた。

また、大学院生については、4月9日のオリエンテーションにて研究倫理の講義を実施し、その後、APRIN eラーニングの教育も受講させ、歯学部生の内、SCRPの研究を実施する学生については、APRIN eラーニングの内容に高度な内容が含まれるため、従来どおり講習会を4月17日、11月1日に実施した。

4. 実験安全管理について

2019年6月、8月には「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

5. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、内容の充実に努めている。リポジトリには、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載した。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』を刊行し、その内容を本学ホームページ（大学トップ>大阪歯科大学について>研究室紹介）に掲載した。

6. 3大学（関西医科大学、摂南大学、本学）医歯薬連携協議会について

2019年3月に「医歯薬に関する学術・研究の連携と協力に関する協定」を締結し2019年5月以降、標記の協議会を3大学輪番制で開催し、共同研究課題について検討を行った。

外部資金による教育研究等の進展

2019年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

○2019年度科学研究費補助金（新規＋継続）

基盤研究（B）	2件
基盤研究（C）	37件
若手研究（B）・若手研究	18件
研究活動スタート支援	2件
合計	59件

補助金交付額	直接経費 6880万円
	間接経費 2064万円
合計	8944万円

- 労災疾病臨床研究補助金事業（厚生労働省）（分担） 1件 50万円
- 国際科学技術共同研究推進事業 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）
（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））（分担） 1件
直接経費50万円 間接経費15万円 合計65万円
- 平成30年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業実施補助金
（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））258万5835円
- 平成30年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）
3億2093万円（一般補助+*特別補助）
（うち特別補助は 3810万9000円）
*特別補助の項目
 - ・大学等の国際交流の基盤整備（海外からの学生の受入れ、学生の海外派遣、教職員の海外派遣、大学等の教育研究環境の国際化）
 - ・大学院等の機能の高度化（大学院における研究の充実）、研究施設運営支援（中央歯学研究所）
 - ・授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実（卓越した学生に対する授業料減免等）
 - ・私立大学等改革総合支援事業（タイプ1 特色ある教育の展開）
- 令和元年度臨床研修費等補助金（歯科医師）（厚生労働省）7572万7000円
- 令和元年度医療関係者研修費等補助金（歯科医師臨床研修指導医講習会事業（臨床研修活性化推進特別事業））（厚生労働省）307万円
- 令和元年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業委託費
（厚生労働省）2065万8001円

国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。2019年度も下記の日程で学生・教員の活発な交流が行われた。

なお、オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外派遣に参加した学生が講演を行っている。

・海外協定校等との交流

【受入】

<期間：2019年7月21日～7月27日>

上海交通大学口腔医学院（学生2名、教員1名）、南方医科大学口腔医学院（学生4名、教員1名）、四川大学華西口腔医学院（学生4名、教員1名）、北京大学口腔医学院（学生4名、教員1名）、台北医学大学口腔医学院（学生2名、教員2名）、山西医科大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、昆明医科大学口腔医学院（学生4名）、遵义医科大学（学生3名、教員1名）、コロンビア大学歯学部（学生1名）が来学し、特別講義（英語での講義）、天満橋学舎附属病院、本学OBの運営する歯科医院を見学した。

なお、期間中の2019年7月23日には、The 3rd Forum for International Studentsが本学楠葉学舎において開催された。これは上記の世界8大学（遵义医科大学を除く）と本学歯学部学生、大学院生及び医療保健学部学生の研究発表を全て英語で行うフォーラムである。

世界9大学学生・教員、本学歯学部第1学年学生、医療保健学部学生、大学院生、本学教職員合わせて530名が出席した。

（上記受入研修は、一部日本・アジア青少年サイエンス交流事業の助成金を使用している。）

<期間：2019年12月9日～13日>

シドニー大学歯学部学生3名が来学した。

本学教員による特別講義のほか、本学OBの運営する歯科医院、歯科材料企業の見学が行われた。

【派遣】

<期間：2019年6月30日～7月12日>

四川大学華西口腔医学院

参加学生3名（3年3名）

<期間：2019年8月17日～26日>

シドニー大学歯学部

参加学生6名（4年1名、3年4名、1年1名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>

北京大学口腔医学院

参加学生4名（4年1名、3年2名、2年1名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>

台北医学大学口腔医学院

参加学生3名（1年3名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>

昆明医科大学口腔医学院

参加学生4名（2年1名、1年3名）、引率教員1名、同行大学院生1名

<期間：2020年3月7日～17日>

コロンビア大学歯学部

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止

<期間：2020年3月22日～29日>

キングス・カレッジ・ロンドン歯学部

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止

【院長等の来学】

南方医科大学口腔医学院	教員5名（期間：2019年4月5日）
山西医科大学口腔医学院	教員4名（期間：2019年4月5日）
呼和浩特市口腔医院	教員2名（期間：2019年4月5日）
中国協定交校・友好大学・口腔医院	教員28名（期間：2019年9月16日～23日）
キングス・カレッジ・ロンドン歯学部長	1名（期間：2019年11月19日）
四川大学華西口腔医学院	教員3名（期間：2019年11月29日）
国際口腔矯正セミナー	教員等17名（期間：2019年12月1日～8日）
四川省日本訪問団セミナー	教員等6名（期間：2019年12月20日）

【学長等の訪問】（派遣）

山西医科大学創立100周年記念式典 教員1名（期間：2019年9月3日～8日）

・中国・武漢大学口腔医院へ支援物資を提供

中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス感染症の被害が拡大したため、1月31日、川添理事長・学長はサージカルマスク1万枚およびサージカルガウン150着の支援物資を武漢大学口腔医院へ提供した。

また、一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息する願いを込め、その支援物資の段ボール全てに、「武漢加油！（がんばれ）中国加油！（がんばれ）」の力強い激励の理事長・学長メッセージを添え、発送作業は、方教授を始め、国際交流事業部及び中国留学生学友会で行われた。

社会連携・社会貢献

・第27回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「アンチエイジング（抗加齢）医学・歯学-長生きする為のひけつ」をメインテーマに、まず天満橋講座として8月24日（土）、31日（土）の2日間、本学創立100周年記念館にて開催され、延べ400名が受講した。

2月期の枚方講座（健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業）については、2月15日（土）、22日（土）の2日間、本学楠葉学舎にて開催の予定であったが、15日のみ開催となり、22日は新型コロナウイルス感染症の全国的流行のため、中止となった。

8月24日「歯科・口腔領域のアンチエイジング：歯から全身へ、全身から歯へ」

講師：米井 嘉一教授（同志社大学生命医学部アンチエイジングリサーチセンター）

受講者数：201名

2020年2月15日 受講者数：213名

8月31日「超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス」

講師：志水 秀郎教授（本学歯学部内科学講座）

受講者数：199名

・枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。その中において2019年度には、枚方市民会館の閉鎖に伴い、各種イベントの開催にあたり会場として楠葉学舎講堂を提供し、一層地域に開かれた大学として貢献した。

また、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。

[こども大学探検隊]（2019年10月26日）

枚方市内在住・在学の小学生（小学4年生～6年生）24名が楠葉学舎に来学し、本学学生有志が運営スタッフとなり、「歯に関するミニ講義」「指の模型作り」等を体験した。（楠葉祭（文化祭）と同時開催）

[ひらかた市民大学]（2019年11月9日）

特色ある4大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。

本学は、楠葉学舎3号館・大学院講義室において、内科学講座教員が「超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス」をテーマに講演を行った。

枚方市が推進するもうひとつの連携事業である「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」については、本学は、公開講座と附属病院医員による「健康医療キャラバン事業」に参画している。6月11日に附属病院総合診療科医員が、大阪府立むらの高等支援学校で、「歯磨き・口腔ケアに関する講座」を開講し、1年生32人が受講し好評を博した。

枚方市の審議会・委員会（環境審議会、健康増進計画審議会、保健所運営委員会）へ本学から教員を派遣し、市政に協力している。

・枚方産学公連携プラットフォーム

四大学（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学）、枚方市、北大阪商工会議所、

(株)資生堂ジャパン、(株)Morondoとの間で枚方産学公連携プラットフォームに関する協定を締結した。枚方市の重点課題の克服に向けた方策の検討、四大学共同での入試説明会、地域の高等教育の発展に関するシンポジウムの開催、連携団体の共同事業の企画立案、外部資金の獲得に向けた検討を行った。

【主な事業】

①「共同FD・SD事業」(第1回：7月5日：本学担当)

職場が生きる、人が育つ学びの支援：経験学習の観点から

②「枚方4大学合同入試説明会」(7月13日：摂南大学担当)

受験生、高校1、2年生、保護者を対象として、枚方市立メセナひらかた会館にて開催された。

③「子ども夢発見 大学と遊ぼう！」(7月20日：大阪工業大学担当)

本学楠葉学舎において、各大学の持つ特色ある教育をアピールするものであり、子どもたちだけでなく、保護者も一緒に楽しめるプログラムを行った。(本学は、解剖学講座による「歯の模型を使った授業」を行った。)

④「4大学教職員を対象とした避難所運営訓練」(8月7日：摂南大学担当)

枚方市の防災対策にかかる官学合同会議を行い、続いて避難所運営ゲーム(HUG訓練)を行った。

⑤「健康浴線トークカフェ」(8月10日：関西医科大学担当)

関西医科大学において、健康寿命を延ばすために何が必要かを医歯薬系学部の教員がわかりやすく講演し、聴衆とトークセッションを行った。

(本学は、有歯補綴咬合学講座による「ライフステージにあわせた虫歯予防」と題して講演を行った。)

⑥「市民公開講座 - 認知症の予防と治療のポイント - 」(8月31日：本学会場校)

本学楠葉学舎において、認知症研究の権威である藤野 武彦氏(九州大学名誉教授・医学博士)を招き、認知症の改善・予防の鍵であるプラズマローゲンの効果の最新研究について講演が行われた。当日の座長は、本学の川添理事長・学長が務めた。

(上記のほか、7月に「資生堂参画によるママさんのスキンケア講座」(摂南大学担当)、9月に「関西医大の消化器がん治療最前線～クラウドファンディングと臨床研究」(関西医科大学担当)、10月に「身体1つでできる軽運動のすすめ」(大阪工業大学担当)が開催された。)

⑦「枚方4大学学園祭スタンプラリー」(10月～11月：摂南大学担当)

[中高生を対象とした講義](10月26日～27日)

楠葉学舎において、本学細菌学講座により『口に棲んでる細菌を集めてみよう - 顕微鏡で見る口の中の細菌 - 』をテーマに講義が行われた。

⑧「ひらかた未来創造事業」（10月～2020年3月：本学担当）

四大学の学生による枚方市の未来について“想像”し、学生目線のまちづくりのための提言を行うもので、テーマを「18歳から26歳未満の有権者投票率」をいかに高めるかについて提言をまとめる事業である。本学楠葉学舎を会場に討議が行われた。現在そのとりまとめ段階である。

附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、利用サービスの充実を図った。教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2019年度>

・蔵書冊数	182,549冊
・年間受入資料冊数	2,120冊
・年間払出資料冊数	2,009冊
・雑誌所蔵種類数（冊子体）	2,210種類
・電子ジャーナル種類数（購入のみ）	5,243種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌 Web 版等のほかに、2019年4月から学術ジャーナル評価データベース（Journal Citation Reports（JCR））を導入した（検索回数1,156）。さらに2020年1月から国立国会図書館デジタルコレクションの利用が可能となった。

学内利用者向けオーダーメイド講習会（図書館職員によるカスタム講習会）を4回開催した（2019年8月13日、9月17日、9月20日、2020年2月27日）。

設備の更新としては、楠葉学舎本館研修室4、グループ学習室のガラス張りへの変更、天満橋分室に雑誌書架、閲覧机・椅子、ブックポスト、磁気抜き機を設置、カウンター・閲覧席付近の照明のLED化工事を行った。

【中央歯学研究所】

口腔科学分野に必要な10の実験施設と中央材料室があり、単独の講座・教室で維持することがむずかしい実験機器を多数設置し、本学の研究の中核施設としての役割を担っている。管理運営については、基礎・臨床系教授、各実験施設長等で構成される中央歯学研究所委員会が設置され、適正な実験の推進について検討している。なお、各施設を利用した研究業績については、毎年刊行している『大阪歯科大学中央歯学研究所報』に掲載している。

教育研究用機器備品として、Bio-Plex200 ベーシックシステム、磁気刺激装置マグスティ

ム200スクエア、超純水製造装置アリウム mini plus UV 等を購入し使用を開始した。

中央歯学研究所講演会を7月10日、10月9日、12月18日、2020年2月26日の合計4回開催した。講師は、本学教員が担当である。

第1回：2019年7月10日（水）16：00～17：00

演題：「細胞を利用した歯周組織再生」

第2回：2019年10月9日（水）17：00～18：00

演題：「睡眠時無呼吸症候群の診断と治療における医科歯科連携」

第3回：2019年12月18日（水）17：00～18：00

演題：「どう考えますか？」

第4回：2020年2月26日（水）17：00～18：00

演題：「高齢者の口腔機能低下とオーラルマネージメント」

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアのバージョンアップ、既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系システム、病院系システム）の運用管理のほか、学内ホームページには、頻繁にセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校として、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業や各種研修会へ積極的に参加し、日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育改善に資する情報提供に努めた。

2019年度は、以下のソフトウェア・ネットワーク機器について更新を行った。

- ・マイクロソフト School Agreement
- ・Client/Server Suite（セキュリティ対策ソフト）
- ・テレビ会議システム（シスコ社製 Web-EX）
- ・ウィルスメール対策装置（パロアルトネットワークス社製の PA-800 シリーズ）
- ・学内ホームページ・施設予約システム
- ・プロキシサーバ
- ・学内ファイアウォール

教員力の向上

1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてのファカルティ・ディベロップメント（FD）セミナーについては、下記の内容で外部講師を招聘するなどし、合計11回開催した。

第1回：4月22日（月） 17：00～18：30

テーマ：2019年度歯学系CBT問題公募要領と問題作成のポイント

講師：本学教員2名（前田 本学教授、梅田 本学教授）

出席者数：160名

第2回：5月20日（月） 17：00～18：30

テーマ：新教育研究棟における兵庫医科大学の新たな教育の取組

講師：鈴木 敬一郎教授（兵庫医科大学副学長（学部教育・内部質保証担当）
医療人育成研修センター長）

出席者数：173名

第3回：5月24日（金） 17：00～18：30

テーマ：CBT問題作成について

講師：須田 直人教授（明海大学）

出席者数：138名

第4回：5月25日（土） 9：30～16：30

テーマ：CBT問題作成について（ワークショップ）

講師：須田 直人教授（明海大学）／森田 学教授（岡山大学）

出席者数：33名

第5回：5月27日（月） 17：00～18：30

テーマ：「スマホ漬け」が招く若者の危機

講師：石川 結貴氏（作家／ジャーナリスト）

出席者数：168名

第6回：6月14日（金） 17：00～18：30

テーマ：アセスメント・ポリシー作成の必要性、学修成果の測定を客観的に行う
ために

講師：田中 正弘 准教授（筑波大学）

出席者数：144名

第7回：7月5日（金） 15：00～16：30

テーマ：職場が生きる、人が育つ学びの支援：経験学習の観点から

＜枚方産学公連携プラットフォーム（共同FD／SD事業）①＞

講師：松尾 睦 教授（北海道大学）

出席者数：76名

第8回：7月30日（火） 17：00～18：30

テーマ：学生教育指導や成績向上に向けて今どきの学生に接する際に心理学的に
気を付けるべきことについて

講師：森岡 正芳 教授（立命館大学）

出席者数：170名

第9回：8月27日（火） 17：00～18：30

テーマ：目標達成のためのメンタルトレーニング

講師：白石 豊 教授（朝日大学）

出席者数：156名

第10回：9月27日（金）15：30～17：00

データ・サイエンス教育について＜臨床歯科医学を例として＞

講師：今井 本学副学長

出席者数：42名

第11回：9月30日（月）17：00～18：30

テーマ：教育の質の向上につながるティーチング・ポートフォリオ

講師：北野 健一 教授（大阪府立大学工業高等専門学校）

出席者数：160名

第12回：2020年3月24日（火）17：00～

テーマ：認知症サポーターとしての活動

＜新型コロナウイルス感染症の感染防止のため延期＞

2. 教員任用関係諸規程の改正

歯学部・医療保健学部教員の研究業績向上を図るため「教員候補者資格審査に関する申し合わせ」を2020年1月23日付で改正した。

内容は、以下のとおりである。

- ・臨床系診療分野及び附属病院診療科の歯学部専任教授及び准教授について
「博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有すること。」
- ・医療保健学部の教授、准教授及び講師について
「応募時の直近年度において文部科学省・日本学術振興会等の科学研究費補助金に申請していること。ただし、本学以外からの候補者は、この限りではない。」

3. 教員評価の実施について

教員評価は、「大阪歯科大学教員評価実施規程」に基づいて実施した。評価領域は、教育活動、研究活動、臨床活動、学内・社会活動の4領域であり、教員の諸活動の活性化と高度化や、任期制教員の業績、能力判定等の資料、教員に対する諸活動の改善及び指導に活用している。

授業評価については、授業担当者に授業改善策の提出を義務付けている。なお、「IR情報」として、「授業評価アンケートの集計結果」をホームページに公開した。

教員評価委員会では、歯学部・医療保健学部の全教員を対象に自身の教育活動への内省を含めた「ティーチング・ポートフォリオ」の導入を決定、FDを開催してその推進に努めた（前掲1. 第11回FDセミナー）。

4. 大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程の改正

審議事項の中で「ティーチング・ポートフォリオを活用した教育支援に関すること。」を追加した（2019年9月27日付）。

附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2019年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。

設備的には従前より推進していた口内法エックス線撮影機器のデジタル化を継続するため2019年度は4台の機器を導入して電子カルテシステムの基盤を整備するとともに、中央画像検査部の画像読影用ワークステーションやレポート・システムの更新により画像診断支援システムの拡充を図った。また、口腔外科用吸引装置（フリーアーム・アルテオ S/F）を各診療科に設置し歯科診療の環境整備による院内感染対策を図った。さらに楠葉学舎で先行導入され各種会議の合理化で高い評価を得ていたペーパーレス会議システムを導入して附属病院での多くの会議に活用し、コピー費用や用紙代の節減を行い会議準備での事務作業の大幅な合理化を実現した。

一方、施設的には附属病院は南館が1960年、西館が1973年、本館が1997年の竣工で、それぞれ相当の年数を経ているものの、日々の診療や教育・研究等に支障を来さないように建物自体の補修や空調、照明等のメンテナンスを適宜実施してきた。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月から、理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下「改革委員会」）を設置し、患者数増加を第一の目標として取り組みを行ってきた。

改革委員会では、毎月の来院患者数目標達成状況等の検討資料を確認してきたが、同時にそれらは附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会にフィードバックして、診療科主体の経営改善の重要な資料となることも目途とされており、毎月の同委員会では病院長提言として改革委員会での議論が報告され、附属病院の現状についての共通認識のもと、改善への協力要請が行われているものである。

特に2019年度の改革委員会では、（1）患者数の増加、（2）診療時間の延長、（3）「診療分野教員」の増員、（4）自費診療の増加、（5）訪問・在宅診療への積極的参入、（6）新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われた。

また、人事的には診療に携わる臨床系講座の教員を「教育部門」と「診療部門」に区分し、診療部門に特化された教員を中心に医療収入増に向けて取り組んだ。さらに2019年10月には臨床系講座の主任教授が担当診療科の科長となっていた従前の体制を抜本的

に改め、原則的に主任教授は科長とせず、各診療科の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長および診療主任に据えるという大幅な改革を断行した。この改革で一層の医療収入の増加や患者数増を目指すこととなった。

上記のような改革が功を奏し、2019年度は医療収入が約22億3000万円（決算額）、患者数が287,495人（入院患者数含む）といずれも過去最高の記録を達成した。

2. 2019年度患者数・医療収入等

2019年度の開院日数は241日であったが（土曜日診療含めず）、医療収入は約22億3000万円（決算額）であり、外来だけの患者数は280,659人で1日平均は1,165人であった。なお、歯科外来だけでみると来院患者数は267,480人となり、1997年の新病院開院以来で最多となった。

一方、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療は2019年度においては累計患者数が7,963人で前年度より9.5%も増加しており、高い評価を得ているものと思われ、今後も継続していくこととしている。

3. 病院情報システム（電子カルテ）について

眼科を除く全診療科で電子カルテが導入されているが、患者の診療情報には各科で撮影したデンタルフィルムや外部医療機関からの紹介状等の電子データとして統合できないものが依然として含まれている。それらは患者フォルダに紙媒体を中心とした資料として保管され、診療時には従前の院内カルテ搬送システムを使用して担当医まで届けられるようになっている。そして、このカルテ搬送システムの維持・管理には相当なコストを要してきた。

そこで、電子カルテ化で支障となっていたデンタルフィルムをデジタル化し、電子カルテの中にデンタルの画像情報も包括できることを目途とし、各診療科への口腔内エックス線撮影装置の設置を推し進めてきた。そして、ほとんどの診療科でデンタルフィルムを取り出すことなく電子カルテ上でデンタル画像を閲覧することが可能となった。

また、診療情報提供書等のカルテ以外の紙媒体の資料についてもスキャナーを用いたデジタル化を積極的に進め、年度末にはほとんどの患者について診療情報の伝達に紙媒体が不要となり、従前の患者毎の診療資料を保存するための所謂“患者フォルダ”を廃止することが可能となった。今後も各種診療情報のデジタル化により、完全電子化に向けた環境整備を一層推進する予定としている。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会（大阪放送局）へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

一方、当院では従前より国家公務員共済組合連合会大手前病院（大阪市中央区）、および関西電力病院（大阪市福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきたが、2018年6月28日に本法人が大阪府下の約200の介護老人保健施設が加盟する公益社団法人大阪介護老人保健施設協会と連携協定を締結したことを踏まえ、今後はこのような介護老人保健施設への訪問診療を拡充し、地域包

括ケアシステムに貢献していく責を担うこととなった。そして、2019年度においても、当院として歯科訪問診療を如何に推進していくかの検討を重ねており、関係者による大阪市内の介護老人保健施設の視察を行う等、訪問診療の推進に向けた取り組みを進めているところである。

5. 歯科医師臨床研修

2018年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて102名であり、研修歯科医を受け入れた研修協力施設は51施設であった。また、交付された臨床研修費等補助金は7,839万円であった。下表に2014年度から2019年度までの当院の研修歯科医受入数を示す。

研修歯科医受入数（人）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
単独型	18	22	16	16	16
複合型	70	84	81	87	83
計	88	106	97	103	99

6. 健康セミナーの開催

当院では患者だけではなく、一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月からおよそ月1回の頻度で開催しており、本年度も当院の特色を活かしたテーマと内容で実施してきた。テーマ等にもよるが、参加者は概ね増加傾向にあり、多くの聴衆の好評をいただいているものと思われる。今年度開催分のテーマを附記する。

<2019年>

- 第21回 4月12日(金) 「こんなに進んでいる“歯の根の治療”」
- 第22回 5月24日(金) 「口の中のできる色々な腫瘍を知って下さい」
- 第23回 6月21日(金) 「口腔癌 放射線治療を知る」
- 第24回 7月19日(金) 「私もインプラントできますか？」
—大学病院だから安全・安心にできること—
- 第25回 8月23日(金) 「私(僕)って、矯正治療、必要なの？」
- 第26回 9月20日(金) 「こわくない歯科治療 —精神鎮静法の話—」
- 第27回 10月18日(金) 「奥歯にも白い歯を」
- 第28回 11月15日(金) 「入れ歯ができるまで」
—義歯を作る過程とその背景—
- 第29回 12月20日(金) 「いつまでも自分の歯を長持ちさせるには」

<2020年>

- 第30回 1月24日(金) 「子どもの歯のケガの治療は専門的知識と高度の技能が必要 —ぜひ、多くの専門家のいる当病院へ—」
- 第31回 2月21日(金) 「あごが痛くなったらどーしよう!？」
—顎関節症の最新治療—
- 第32回 3月13日(金) 【中止】(新型コロナウイルス感染予防のため)

7. 病診連携講演会・懇談会

従前より病診連携講演会・懇談会を毎年実施してきたが、2019年度で17回目となり、2020年2月8日（土）に開催した。テーマは「歯科との接点としての耳鼻咽喉科」であった。

本院は毎年約2,700の医療機関からの患者紹介を受けている。2019度に紹介された新患者数は11,987人で、紹介患者率は約44%になっていることを重視し、今後もこのような医療機関との連携を確保するためにも本事業を継続していくこととしている。

8. 地域医療連携

- ・ 地域歯科医療の中核として、2019年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼はその件数だけでなく、高額な検査ゆえに年間1,200万円ほどの収益を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。
- ・ 「大手前病院・大阪歯科大学附属病院協力医療機関定例連絡協議会」を3ヶ月に1回の頻度で開催し、その連携・協力体制を維持するとともに、当院からの歯科訪問診療の機会を確保している。また、施設基準「感染防止対策加算2」の届出に当たっては、要件となる院内感染防止に係る病院との連携を大手前病院との間で締結している。同様に大手前病院と連携しているコープ大阪病院と共に年4回の合同カンファレンスを開催するなど、院内感染防止の向上に努めている。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2019年度は下記の日程で開催し、多数の教職員を受講させ、当院の医療安全と院内感染対策の一助とした（（ ）内は受講者数）。

・ 院内感染対策講習会

- 2019年 4月1日 「医療安全講習（院内感染対策①）」（98名）
「医療安全講習（院内感染対策②）」（98名）
- 4月16日 「チームで高める感染対策」（262名）
- 5月14日 「歯科における病院感染対策
～手指衛生と個人防護具を中心に～」（256名）
- 9月26日 「インフルエンザの感染対策」（109名）
- 11月26日 「針刺し切創対策について」（294名）
- 2020年 2月6日 「歯科器材の洗浄から滅菌について」（108名）

・ 医療安全講習会

- 2019年 4月2日 「医療安全講習①（概論）」（98名）

- 「医療安全講習②（救急蘇生）」（98名）
- 4月3日 「薬物に対する正しい知識」（98名）
- 「医療現場のコミュニケーション 一人一人が医院の顔」（98名）
- 4月17日 「中央手術室オリエンテーション」（98名）
- 8月6日 「医療ガスの安全管理について
ーヒヤリ・ハットを防ぐためにー」（134名）
- 8月14日 「改正個人情報保護法とICT環境下におけるリスクマネジメント」
（84名）
- 9月17日 「本学病院の医療安全の問題点」（106名）
- 10月22日 「大学病院における医療安全 ～最近の話題から～」（116名）

・医薬品安全管理講習会

- 2019年 4月1日 「医療安全講習（医薬品①）」（98名）
- 「医療安全講習（医薬品②）」（98名）
- 2020年3月12日 「最近の医薬品情報よりー医薬品の適正な使用に関してー」
（128名）

・医療機器安全管理講習会

- 2019年 4月3日 「医療安全講習（医療機器①）」（98名）
- 「医療安全講習（医療機器②）」（98名）
- 2020年2月27日 「本学におけるX線検査の安全管理について」（145名）

10. 大阪歯科大学歯科衛生士研修センターの発足について

本学は、平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の実施団体に選定された。これに伴い前年度の2018年10月、その拠点として本院内に「大阪歯科大学歯科衛生士研修センター」が発足した。そして、当該事業の開始時の「キックオフセミナー」に引き続き、初年度には2018年12月から2019年2月にかけて基礎研修、臨床研修のプログラムを経て、第1期生を修了させた。

2019年度も当該事業を継続し、年度内に計3回のプログラムを実行し、事業のより一層の発展を図った。

11. 本院ホームページのリニューアルについて

建学の精神である「博愛」と「公益」、「病院理念」の具現化を柱に、本院関係者と広報委員会を中心に、患者の方々のニーズに対応したきめ細かな情報提供と健康増進に寄与することを目的として、2018年度から附属病院ホームページのリニューアルに着手することとなり、2017年度にリニューアルを完了した本学のホームページのユーザビリティと意匠を基調に準拠した新たなホームページを2019年6月に公開することとなった。

新しい附属病院のホームページでは従前の当院の診療に係る情報だけではなく、患者や研修歯科医希望者を対象にした問い合わせフォームを設定し、気軽に質問や相談ができるような仕組みを組み込んだが、概ね好評であり、多くの問い合わせ等を受けることになった。

そして、迅速な回答を励行することにより多くの患者のスムーズな来院を支援する一助となっているものと思量される。

施設・設備の整備

楠葉学舎（面積：33,378.47㎡）

1号館高圧受電設備改修工事、1号館ガス吸収式冷温水発生機整備工事、3号館パッケージエアコン更新工事、防災システム機器更新工事、排水処理施設整備工事（第Ⅰ、Ⅱ期工事）を行った。

牧野学舎（面積：49,985.33㎡）

正門改修工事、2号館1階男子学生更衣室改修工事、体育館高圧受電設備改修工事、校地周辺フェンス改修工事を行った

天満橋学舎（面積：5,729.08㎡）

医療ガス整備（リール式アウトレット取替）工事、受電設備リレー更新工事、本館PAC空調機器更新工事、ガス吸収式冷温水発生機整備工事、CT-51冷却塔（1号機）補修工事、CT-051、CT-053冷却塔（2号機、3号機）補修工事、本館手術室1及び2のLED照明取替工事、非常用発電機蓄電池交換工事、歯科診療用吸引装置更新工事を行った。

法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

・大学ホームページを充実させ、本学の特色について広報活動を活発に行った。大学公式フェイスブックを随時更新し、ステークホルダーのニーズを的確に把握するように努めた。

・環境省が推進しているクールビズ、ウォームビズを本法人理事会決定で実施し、夏季及び冬季の省エネルギー意識の高揚に努めた。

・なお、学校法人大阪歯科大学SD推進委員会が設置（2019年5月）され、教職員の資質向上に向けて、SDを実施する体制を整備した。

2019年9月20日（金）「大学を取り巻く環境の変化と大学改革」と題して、木村 克紀氏（（株）エデュース取締役、学校人育成塾代表）を招き、近年の学校を取り巻く環境、ミッションツリーマネジメントについて講演が行われた。このSDには大阪府下の他私立大学の事務職員も参加した。

教職員全体のSDについては、2020年1月の新年互礼会をSD研修会として、理事長・学長が本学の目指す重点計画（中期計画を含む）について講演した。

・教職員に対する人権意識向上の一環としての「人権啓発講演会」は、本学人権教育室教員により、2019年10月28日（金）「人権って何？：その過去、現在、未来」と題して開催した。10月22日（火）から11月15日（金）にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点、優秀賞2点を選考し、各受賞者（歯学部学生）に学長から表彰を行った。

[附属資料]

1. 2019年度学生数（2019年5月1日現在） ()は女子

歯学部	第1学年	130	(75)	歯学研究科	第1学年	38	(13)
	第2学年	139	(74)		第2学年	23	(10)
	第3学年	129	(63)		第3学年	33	(12)
	第4学年	134	(61)		第4学年	27	(6)
	第5学年	148	(62)			121	(41)
	第6学年	155	(75)				
		835	(410)				

医療保健学部	第1学年	口腔保健学科	80	(80)	口腔工学科	19	(7)
	第2学年	口腔保健学科	69	(67)	口腔工学科	14	(8)
	第3学年	口腔保健学科	39	(39)	口腔工学科	9	(2)
			188	(186)		42	(17)

医療保健学研究科	第1学年	12	(11)
	第2学年	13	(10)
		25	(21)

2. 第113回歯科医師国家試験の結果 2020年3月16日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	170	113	66.5	68	58	85.3	102	55	53.9
全国	3,211	2,107	65.6	1,995	1,583	79.3	1,216	524	43.1

3. 2020年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
歯学部	推薦	74	45	128
	一般前期	290	72	
	一般後期	120	8	
	センター前期	129	3	
	センター後期	31	4	
	プラス1前期	112	7	
	プラス1後期	29	3	
	外国人留学生	0	-	
	編入前期	4	2	
	編入後期	2	2	

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数	
医療保健学部	口腔保健学科	推薦A	45	19	74
		推薦B	28	9	
		推薦	39	39	
		一般前期	30	5	
		一般後期	14	9	
		センター前期	16	6	
		センター後期	3	1	
		社会人特別	0	-	
		帰国生特別	0	-	
		外国人特別	1	1	
		編入	0	-	
		推薦A	12	12	
		推薦B	0	-	
		推薦	2	2	
	一般前期	12	7	27	
	一般後期	4	4		
	センター前期	9	4		
	センター後期	2	0		
	社会人特別	0	-		
	帰国生特別	0	-		
	外国人特別	7	7		
	編入	0	-		
	ダブル・ディグリー・プログラム	1	1		
	ケラム				
歯学研究科	一般一次	13	10	40	
	一般二次	19	18		
	社会人特別	1	1		
	外国人留学生特別選抜	13	13		
医療保健学研究科	修士課程	一般一次	4	4	10
		一般二次	3	3	
		一般三次	3	3	
	博士課程	一般一次	5	5	9
		一般二次	4	4	
		一般三次	0	-	

4. 2018年度会計実査 2019年4月2日

5. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2019年4月5日(金) 午前10時(於: 楠葉学舎)
6. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式
2019年4月5日(金) 午後2時(於: 楠葉学舎)
7. 新入生研修
 - ・歯学部 2019年4月9日、10日(於: 楠葉学舎)
 - ・医療保健学部 2019年4月8日(於: 楠葉学舎)
8. 2019年度FDセミナー(本文参照)
9. 2018年度監事監査 2019年5月20日、21日(於: 楠葉学舎)
10. 歯学部父兄会・共済会総会(於: 楠葉学舎)
2019年6月29日(土) 午後1時 父兄出席者数342名
11. オープンキャンパス
 - 1) 歯学部オープンキャンパス(於: 楠葉学舎, 第2回のみ天満橋学舎)
 - ・第1回 2019年7月21日(日) 235名参加(うち, 高校生等116名)
 - ・第2回 2019年8月19日(月) 102名参加(うち, 高校生等56名)
 - ・第3回 2019年9月29日(日) 137名参加(うち, 高校生等60名)
 - 2) 医療保健学部オープンキャンパス(本文参照)
12. 第51回全日本歯科学生総合体育大会(当番校: 福岡歯科大学)
2019年7月30日(火)~8月10日(土) 本学は総合第5位
13. 第27回大阪歯科大学公開講座(本文参照)
14. 第5学年父兄会 2019年9月28日(土) 午前9時30分(於: 100周年記念館)
15. 第6学年父兄会 2019年9月28日(土) 12時50分(於: 100周年記念館)
16. 2019年度大学祭(テーマ: 猪突猛進)
 - ・体育祭 雨天のため中止
 - ・文化祭 2019年10月26日(土)、27日(日)(於: 楠葉学舎)
17. 2019年度人権啓発講演会
2019年10月28日(於: 100周年記念館)
テーマ「人権って何?: その過去、現在、未来」講師: 人権教育室 櫻則章教授

18. 解剖体慰霊祭・御遺骨返還式 2019年11月7日(木)午後1時(於:四天王寺)
19. 実験動物慰霊祭 2019年11月15日(金)12時35分(於:楠葉学舎講堂)
20. 2019年度防災・防火訓練 楠葉学舎 2019年11月29日(金)
 牧野学舎 2019年12月11日(水)
 天満橋学舎 2019年12月13日(金)
21. 共用試験2019 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアル
 ・臨床実地試験 2019年12月5日(医療系大学間共用試験実施評価機構視察日)
 ・一斉技能試験 2019年12月14日
22. 2019年全学教職員忘年慰労会 2019年12月27日(於:天満橋学舎)
23. 2020年新年互礼会 2020年1月6日(於:楠葉学舎)
24. 教授定年退職記念講演会 2020年2月11日(於:100周年記念館)
 清水谷公成主任教授(14:10~)、田中昌博主任教授(14:55~)
25. 2019年度共用試験歯学系 CBT 並びに OSCE
 ・CBT 2020年2月25日(火)午前9時30分(於:楠葉学舎)
 ・OSCE 2020年3月15日(日)午前9時(於:天満橋学舎)
26. 2019年度卒業証書・学位記授与
 ・歯学部・歯学研究科 2020年3月13日(金)午前10時(於:楠葉学舎)
 ・医療保健学研究科 2020年3月22日(日)午前10時(於:楠葉学舎)
27. 2019年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2020年3月24日(於:天満橋学舎)
28. 特待生の採用
 ・歯学部 2年から6年の各学年3名、計15名に対し授業料100万円免除
 ・医療保健学部 各学科1年2名、2年1名、3年1名の計8名に対し授業料52.5万円免除
29. 大学学内奨学生選考
 2名の学生に対して総額1,450,000円の奨学金を貸与
30. 附属病院関係
 ・睡眠時無呼吸外来開設(2019年4月)
 ・大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関に選定(2019年5月31日)

- ・大阪国際先制医療センター開設（2019年9月1日）
- ・令和元年度臨床研修活性化推進特別事業の補助対象施設に選定（2019年10月10日）
補助金額 3,070,000円

31. 2020年度研修歯科医の募集定員

単独研修方式20名、複合研修方式120名

32. 学位授与

1) 博士（歯学）

学位記番号 甲第 855号～885号 31名に学位記授与

学位記番号 乙第 1620号～1626号 7名に学位記授与

2) 修士（口腔科学）

学位記番号 甲第 1号～10号 10名に学位記授与

33. 医療保健学部教員が学会論文賞受賞

- ・口腔保健学科 橋本正則教授 / 平成30年度日本歯科理工学会論文賞

34. 歯学部生が全国学生技能コンペで優秀賞受賞

- ・歯学部5年 荒木崇丸 / 第1回JPS Student Clinical Skills Competition（日本補綴歯科学会主催）優秀賞

35. 2019年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議

1) 法人理事会 16回開催

（2019年4月25日、5月30日（2回）、6月27日（2回）、7月25日、8月29日、9月26日、10月24日、11月28日（2回）、12月27日、2020年1月23日、2月27日、3月26日（2回））

2) 法人評議員会 4回開催

（2019年5月30日、6月27日、11月28日、2020年3月26日）

3) 歯学部主任教授会 22回開催

（2019年4月10日、5月8日、6月12日、6月21日、7月10日、7月24日、8月14日、9月11日、10月9日、10月23日、11月13日、11月20日、11月27日、12月11日、2020年1月8日、1月15日、1月24日、2月5日、2月12日、3月5日、3月13日、3月30日）

4) 歯学部教授会 2回開催

（2019年4月10日、2020年3月30日）

5) 医療保健学部教授会 17回開催

（2019年4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、10月25日、11月20日、12月18日、12月20日、2020年1月15日、2月6日、2月19日、3月6日、3月18日、3月25日）

6) 歯学研究科会議 15回開催

(2019年4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月9日、10月23日、11月13日、11月27日、12月25日、2020年1月22日、2月5日、2月26日、3月25日)

7) 医療保健学研究科会議 16回開催

(2019年4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月5日、8月21日、9月6日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、2020年1月15日、1月29日、2月19日、3月6日、3月18日)

36. 令和元年の叙勲受章者(本学関係)

大学11回 戸田 忠夫 大阪府 瑞宝中綬章 共18名

37. 教職員数(2019年5月1日現在:363名)

1) 教員数 201名

学長1名

歯学部 157名

主任教授25名、専任教授5名、准教授17名、講師47名、助教63名

医療保健学部 27名

教授10名、准教授5名、講師5名、助教3名、助手4名

附属病院 16名

専任教授1名、病院教授1名、准教授3名、講師9名、助教2名

2) 職員数 162名

事務・技術77名、医療84名、労務1名

38. 人事

1. 学長再任 川添 堯彬(任期:2019(令和元)年10月1日~2023(令和5)年9月30日)

2. 法人関係

1) 理事長再任 川添 堯彬(任期:2019(令和元)年10月1日~2022(令和4)年4月2日)

2) 理事死亡退任 三谷 卓(2019年8月13日)、田中 昌博(2020年2月13日)

3) 評議員退任 清水谷 公成 共2名(2020年3月31日付)

3. 名誉教授称号授与 竹村 明道 共3名

4. 退職

1) 定年退職 歯科放射線学講座 主任教授 清水谷 公成 共5名

2) 依願退職 生理学講座 講師 平野 俊一郎 共20名

3) 死亡退職 有歯補綴咬合学講座 主任教授 田中 昌博

4) 任期制教員任期満了退職 薬理学講座 講師 河合 まりこ 共3名

5) 任期満了退職 施設課 特任職員 田中 修 共2名

5. 昇任

1) 退職に伴う教授特別昇任 口腔診断・総合診療科 准教授 紺井 拡隆

- 2) 歯学部准教授 欠損歯列補綴咬合学講座教育分野 講師 吉峰 茂樹
- 3) 退職に伴う准教授特別昇任 口腔外科学第二学講座教育分野 講師 蠅庭 秀也
- 4) 歯学部講師 高齢者歯科学講座 助教 奥野 健太郎 共8名
- 5) 職員 歯科技工士長 東 宗秀 共7名

6. 任用

- 1) 歯学部主任教授 生理学講座 博士(歯学) 合田 征司 共3名
 - 2) 定年延長に伴う主任教授任用 再生医療学室 主任教授 今井 弘一
 - 3) 歯学部専任教授 医療安全管理学 歯学博士 佐久間 泰司 共2名
 - 4) 歯学部講師 口腔衛生学講座 博士(医学) 河村 佳穂里 共2名
 - 5) 医療保健学部講師 口腔保健学科 修士(社会福祉学) 芦田 麗子 共2名
 - 6) 歯学部助教 物理学教室 博士(人間・環境学) 佐藤 衆一 共8名
 - 7) 医療保健学部助教 口腔工学科 修士(教育学) 藤田 暁 共2名
 - 8) 医療保健学部助手 口腔保健学科 学士(文学) 寺島 雅子 共2名
 - 9) 大学院歯学研究科教員
 - 大学院教授 合田 征司 共3名
 - 大学院講師 原 朋也 共2名、大学院助教 田中 佑人 共2名
 - 10) 大学院医療保健学研究科教員 大学院講師 梶 貢三子
 - 11) 診療科長 保存修復科 講師 谷本 啓彰 共17名
 - 12) 診療主任 保存修復科 助教 小正 玲子 共16名
 - 13) 法人事務局長 大学事務局長 児玉 孝
 - 14) 任期付職員の専任職員登用 中央歯学研究所 研究技術員 河出 直哉 共8名
 - 15) 任期付職員新規採用 経理課 事務職員 浅田 太誠 共7名
 - 16) 看護師 附属病院 寺西 智子 共3名
 - 17) 歯科技工士 附属病院 大谷 泰広 共3名
7. 歯学部任期制教員任期更新 口腔治療学講座 主任教授 前田 博史 共18名
 8. リサーチ・アシスタント採用 口腔外科学第二 3年 中野 宏祐 共2名
 9. 臨床系講座診療分野異動 小児歯科学講座 助教 人見さよ子 共2名
 10. 所属異動 医療保健学部事務室 主任 中辻ときみ 共3名
 11. 兼務 国際交流事業部 部長 牧谷 弘幸 共3名
 12. 特任職員採用 内部監査室 室長 齊藤 広志 共3名
 13. 定年退職後再々雇用 歯科衛生士研修センター 歯科衛生士 高田橋 美幸 共2名
 14. 委嘱

1) 大学役職者

- 副学長、医療保健学部長、大学院医療保健学研究科科長 今井 弘一
- 2) 歯学部特任教授 歯科医学教育開発室 松本 秀範 共3名
- 3) 医療保健学部特任教授 歯科東洋医学室 方 一如
- 4) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦
- 5) 客員教授 東京医科歯科大学 元教授 五十嵐 順正 共9名
- 6) 客員准教授 大阪歯科大学 元准教授 好川 正孝 共2名

- 7) 客員講師 大阪歯科大学 元講師 小川 文也
- 8) Honorary Visiting Professor
英国キングス・カレッジ・ロンドン大学 歯学部長 Mike Curtis
- 9) Visiting Professor
英国カーディフ大学歯学部 教授 Rachel O'Brien Waddington 共11名
- 10) 歯科衛生士研修センター長 山本 一世、同副センター長 歯科衛生士 高田橋 美幸
- 11) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康
- 12) 医員 37名
- 13) 病院医員 64名
- 14) 大学院医員 64名
- 15) ティーチング・アシスタント 歯科保存学 2年 奥村 瑳恵子 共10名
- 16) ティーチング・アシスタント代行 歯内治療科 病院医員 重枝 浩弥 共5名
- 17) ポストドクトラルフェロー 有歯補綴咬合学 安井 由香 共2名
- 18) 学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共2名
- 19) 医務室嘱託医師 大阪大学医学部 医師 木田 博 共3名
- 20) 委員会委員長
 - (1) 医療保健学部関係
国際交流委員会委員長 柿本 和俊
- 21) 歯学部学年指導教授
1年・2年 藤原 眞一、富永 和也 3年・4年 三宅 達郎、合田 征司
5年・6年 前田 博史、梅田 誠
- 22) 歯学部学友会会長 主任教授 藤原 眞一
医療保健学部学友会会長 学部長 今井 弘一

39. 学外活動

- 1) 教授海外視察 物理学教室 主任教授 辻林 徹
- 2) 教員海外出張 小児歯科学講座 主任教授 有田 憲司 共22件
- 3) 共同研究員受入 廣東医科大学口腔医学院 研究員 Luo Ghuyi 共15名
- 4) 国際交流（本文参照）

40. 補助金・助成金

- 1) 2019年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（12件）2,500,000円
- 2) 平成31年度科学研究費補助金交付（文部科学省）（本文参照）
- 3) 令和元年度私立大学等経常費補助金交付額 320,930,000円
- 4) 令和元年度臨床研修費等補助金交付額 75,727,000円
- 5) 国際交流助成
歯周病学講座 助教 山内伸浩 共6件に対し1,244,000円の助成
- 6) 寄贈
大阪歯科大学歯科衛生士専門学校保護者会から1,281,474円 共5件

41. 諸規程

- 1) 大阪歯科大学大学院学則（一部改正）
- 2) 大阪歯科大学教員選考規程（一部改正）
- 3) 歯学部臨床系診療分野教員に関する申し合わせ（一部改正）
- 4) 大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程（一部改正）
- 5) 大阪歯科大学特別聴講生に関する申し合わせ（一部改正）
- 6) 学校法人大阪歯科大学就業規則（一部改正）
- 7) 学校法人大阪歯科大学任期付職員就業規則（一部改正）
- 8) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則（一部改正）
- 9) 学校法人大阪歯科大学教育職嘱託給与規程（一部改正）
- 10) 学校法人大阪歯科大学経理規程（一部改正）
- 11) 学校法人大阪歯科大学予算執行規程（一部改正）
- 12) 大阪歯科大学附属病院研修歯科医就業規則（一部改正）
- 13) 大阪歯科大学附属病院研修管理委員会規程（一部改正）（以上 2019年4月1日付）
- 14) 大阪歯科大学附属病院規程（一部改正）（2019年4月1日付）（2019年7月25日付）
- 15) 学校法人大阪歯科大学嘱託規程（一部改正）（2019年4月1日付）（2019年12月27日付）
- 16) 公印規程（一部改正）
- 17) 学校法人大阪歯科大学SD推進委員会規程（一部改正）（以上 2019年5月30日付）
- 18) 大阪歯科大学における勉学と課外活動に関する内規（一部改正）
- 19) 大阪歯科大学附属病院大学院医員就業規則（施行）（以上 2019年6月27日付）
- 20) 大学院医療保健学研究科の学会発表における共同演者及び修士論文のタイトルに関する内規（施行）
- 21) 外部資金による研究補助者の労働者派遣取扱いに関する規程（一部改正）
- 22) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則（一部改正）
- 23) 大阪歯科大学附属病院中央滅菌材料室運営委員会規程（一部改正）
- 24) 材料薬品等管理運営委員会規程（一部改正）（以上 2019年7月25日付）
- 25) 大阪歯科大学医療保健学部学友会会則（施行）
- 26) 学校法人大阪歯科大学管理運営規則（一部改正）
- 27) 大阪歯科大学附属病院大学院医員就業規則（一部改正）（以上 2019年8月29日付）
- 28) 大阪歯科大学附属病院大阪国際先制医療センター規程（施行）（2019年9月1日付）
- 29) 教職員定年規程（一部改正）
- 30) 職員の定年の延長に関する申し合わせ（一部改正）（以上 2019年9月26日付）
- 31) 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）（2019年9月26日付）（2019年9月27日付）
- 32) 大阪歯科大学学部等横断カリキュラム検討委員会規程（施行）
- 33) 大阪歯科大学歯学部カリキュラム委員会規程（一部改正）
- 34) 大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程（一部改正）
- 35) 大阪歯科大学医療保健学部カリキュラム委員会規程（一部改正）（以上 2019年9月27日付）
- 36) 大阪歯科大学大学院歯学研究科専攻科教員任用規程（一部改正）（2019年10月24日付）

- 37) 大阪歯科大学医療保健学部教務部・学生部合同委員会規程（施行） (2019年11月1日付)
- 38) 教員の兼務、出張及び研修に関する内規（一部改正） (2019年12月27日付)
- 39) 大阪歯科大学高等教育の修学支援制度による減免規程（施行） (2020年1月1日付)
- 40) 教員候補者資格審査に関する申し合わせ（一部改正） (2020年1月23日付)
- 41) 大阪歯科大学学費等納付金規程（一部改正） (2020年2月1日付)
- 42) 大阪歯科大学歯学部奨学金貸与規程（一部改正）
- 43) 大阪歯科大学が求める教員像および教員組織の編制方針（施行）
- 44) 学生の通学が困難となる事由が発生した場合の授業等の取扱い規程（一部改正）
- 45) 大阪歯科大学医療保健学部履修規程（一部改正）
- 46) 大阪歯科大学転学部の取扱いに関する規程（施行）
- 47) 大阪歯科大学医療保健学部教務部委員会規程（一部改正）
- 48) 学校法人大阪歯科大学定年退職者の再雇用に関する規則（一部改正）
(以上 2020年2月27日付)
- 49) 学校法人大阪歯科大学寄附行為（一部改正） (2020年3月16日付)
- 50) 役員の報酬等の支給に関する規程（施行） (2020年3月26日付)

第 2 部 財務状況の概要

2. 令和元年度（2019年度）財務状況の概要

（1）決算概要

① 資金収支計算書

収入項目では、平成29年度に開設した医療保健学部の学生数増加等が寄与し学生生徒等納付金収入が前年度比増加したことに加え、付随事業・収益事業収入における医療収入が増加しましたが、寄付金収入や補助金収入及び受取利息・配当金収入が減少しました。

支出項目では、人件費支出と経費支出が増加しましたが、施設・設備関係支出は減少しました。これにより、翌年度繰越支払資金は前年度比299,298千円増加し、3,358,475千円となりました。

令和元年度 資金収支計算書

（単位：千円）

科 目	令和元年度		平成30年度 決算	平成30年度 決算との差異
	予算	決算		
学生生徒等納付金収入	4,878,250	4,730,715	4,656,405	74,310
手数料収入	40,545	41,872	39,320	2,552
寄付金収入	48,942	54,993	117,385	△ 62,392
補助金収入	470,776	423,960	484,017	△ 60,057
付随事業・収益事業収入	2,180,621	2,306,336	2,018,242	288,094
受取利息・配当金収入	74,630	70,397	91,938	△ 21,541
雑収入	254,286	303,392	435,637	△ 132,245
前受金収入	497,300	524,805	500,982	23,823
その他の収入	952,659	1,102,870	1,090,022	12,848
資金収入調整金勘定	△ 893,246	△ 996,505	△ 1,080,528	84,023
前年度繰越支払資金	3,059,177	3,059,177	3,031,584	27,593
収入の部合計	11,563,940	11,622,017	11,385,008	237,009
人件費支出	4,280,853	4,347,075	4,329,223	17,852
教育研究経費支出	2,525,428	2,312,598	2,172,024	140,574
管理経費支出	523,613	477,598	449,178	28,420
施設関係支出	85,388	128,549	162,896	△ 34,347
設備関係支出	174,431	174,026	271,574	△ 97,548
資産運用支出	797,644	890,593	962,599	△ 72,006
その他の支出	322,685	407,062	385,894	21,168
資金支出調整金勘定	△ 317,809	△ 473,962	△ 407,560	△ 66,402
翌年度繰越支払資金	3,140,924	3,358,475	3,059,177	299,298
支出の部合計	11,563,940	11,622,017	11,385,008	237,009

② 活動区分資金収支計算書

教育活動資金収支は、学生生徒等納付金収入と医療収入の増加等が貢献し教育活動資金収入が増加したこと等により885,113千円の資金増となりました。

一方、施設整備等活動資金収支差額は施設・設備関係支出の減少に伴い496,267千円の減少にとどまり、その他の活動資金収支差額も89,548千円の減少にとどまったため、翌年度繰越支払資金の残高は前年度比299,298千円増加しました。

令和元年度 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和元年度	平成30年度	差 異
教育活動資金収入計	7,861,270	7,751,008	110,262
学生生徒等納付金収入	4,730,715	4,656,405	74,310
経常費等補助金収入	423,960	484,017	△ 60,057
医療収入	2,231,267	1,947,416	283,851
教育活動資金支出計	7,137,272	6,950,425	186,847
人件費支出	4,347,075	4,329,223	17,852
教育研究経費支出	1,833,307	1,760,913	72,394
医療経費支出	479,290	411,110	68,180
管理経費支出	477,598	449,178	28,420
差引	723,998	800,582	△ 76,584
調整勘定等	161,115	△ 62,682	223,797
教育活動資金収支差額	885,113	737,900	147,213
施設整備等活動資金収入計	0	0	0
施設整備等活動資金支出計	523,757	656,807	△ 133,050
差引	△ 523,757	△ 656,807	133,050
調整勘定等	27,490	49,124	△ 21,634
施設整備等活動資金収支差額	△ 496,267	△ 607,682	111,415
その他の活動資金収入計	581,488	657,616	△ 76,128
受取利息・配当金収入	70,397	91,938	△ 21,541
その他の活動資金支出計	671,036	760,180	△ 89,144
差引	△ 89,548	△ 102,563	13,015
調整勘定等	0	△ 61	61
その他の活動資金収支差額	△ 89,548	△ 102,625	13,077
支払資金の増減額	299,298	27,593	271,705
前年度繰越支払資金	3,059,177	3,031,584	27,593
翌年度繰越支払資金	3,358,475	3,059,177	299,298

③ 事業活動収支計算書

基本金組入前当年度収支差額は、教育活動収支差額が学生生徒等納付金や医療収入等の増加により117,956千円の黒字となったことに加え教育活動外収支差額も黒字を確保したため、188,741千円の黒字となりました。

令和元年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和元年度		平成30年度 決算	前年度決算 との差異
	予算	決算		
教育活動収入計	7,873,420	7,861,336	7,752,290	109,046
学生生徒等納付金	4,878,250	4,730,715	4,656,405	74,310
経常費等補助金	470,776	423,960	484,017	△ 60,057
付随事業収入	2,180,621	2,306,336	2,018,242	288,094
雑収入	254,286	303,392	436,882	△ 133,490
教育活動支出計	8,013,186	7,743,380	7,605,586	137,794
人件費	4,259,059	4,251,585	4,290,627	△ 39,042
教育研究経費	3,151,076	2,934,872	2,786,544	148,328
管理経費	603,051	556,568	528,364	28,204
教育活動収支差額	△ 139,766	117,956	146,703	△ 28,747
教育活動外収入計	74,150	69,917	91,458	△ 21,541
受取利息・配当金	74,150	69,917	91,458	△ 21,541
教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額	74,150	69,917	91,458	△ 21,541
経常収支差額	△ 65,616	187,874	238,162	△ 50,288
特別収入計	12,000	26,904	15,603	11,301
特別支出計	0	26,037	39,350	△ 13,313
特別収支差額	12,000	867	△ 23,747	24,614
基本金組入前当年度収支差額	△ 98,438	188,741	214,415	△ 25,674
基本金組入額合計	△ 64,016	0	△ 59,104	59,104
当年度収支差額	△ 162,454	188,741	155,310	33,431
前年度繰越収支差額	△ 20,007,756	△ 20,007,756	△ 20,247,178	239,422
基本金取崩額	1,151	27,349	84,111	△ 56,762
翌年度繰越収支差額	△ 20,169,059	△ 19,791,665	△ 20,007,756	216,091
事業活動収入計	7,959,570	7,958,159	7,859,352	98,807
事業活動支出計	8,058,008	7,769,417	7,644,937	124,480

④ 貸借対照表

資産の部は、有形固定資産が減価償却の進展等により353,689千円減少する一方、特定資産が403,189千円増加し、流動資産も微増したため前年度比190,371千円増加しました。

純資産は、前年度比188,741千円増加し54,130,725千円となりました。純資産が負債及び純資産の部合計に占める割合である純資産構成比率は91.4%となりました。

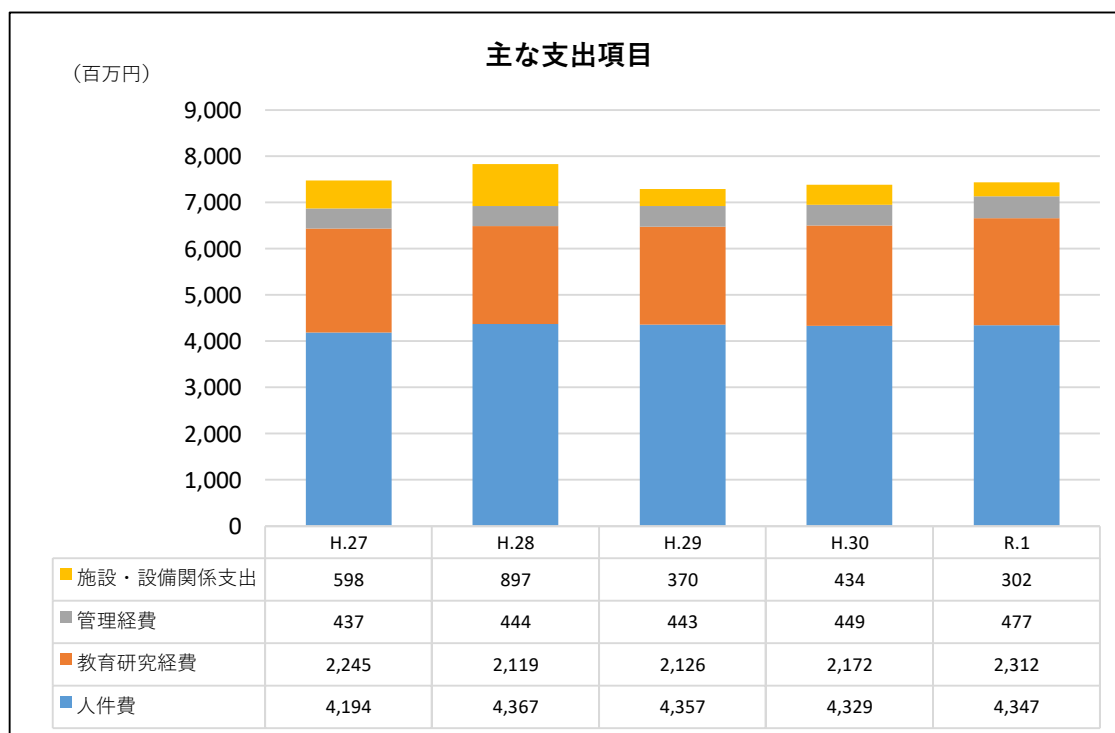
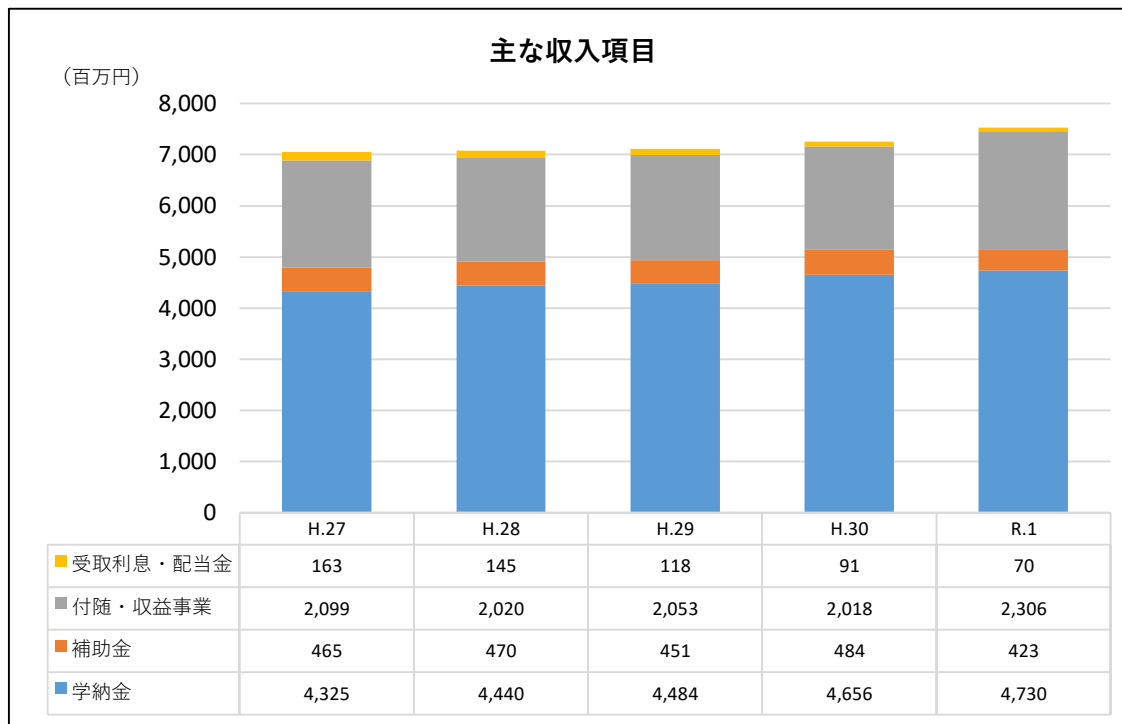
令和元年度末 貸借対照表

(単位：千円)

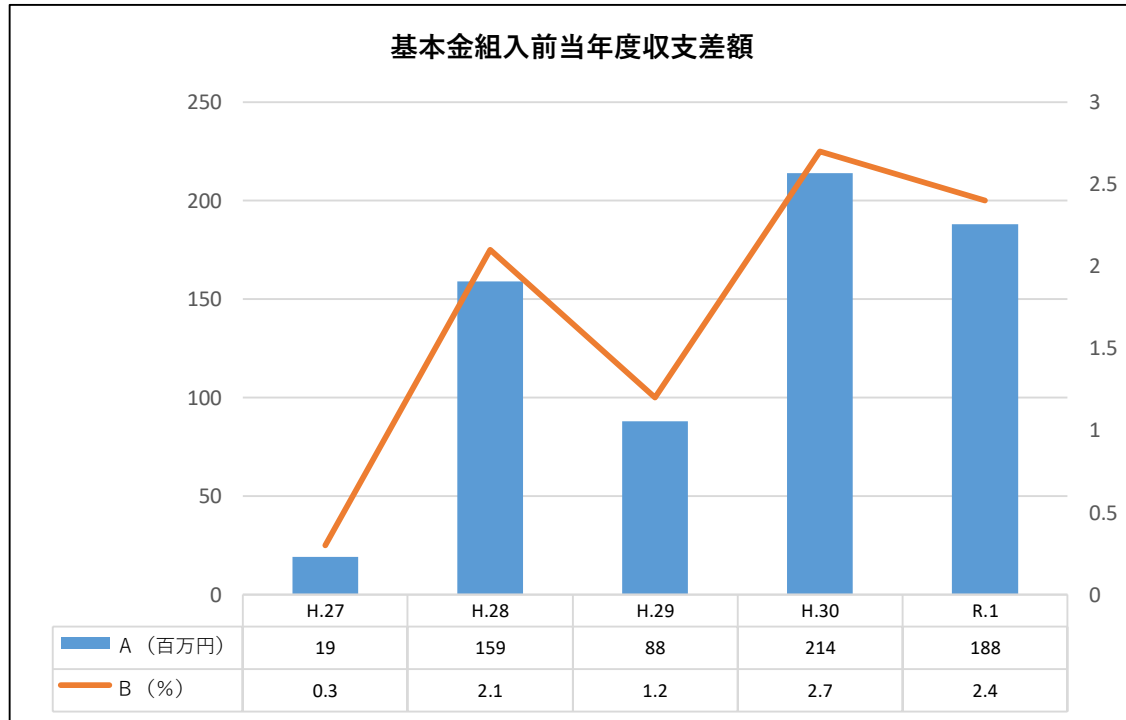
科 目	令和元年度末	平成30年度末	差 異
固定資産	55,350,166	55,364,693	△ 14,527
有形固定資産	18,028,342	18,382,031	△ 353,689
土地	5,397,487	5,397,487	0
建物	9,284,854	9,615,026	△ 330,172
教育研究用機器備品	1,217,943	1,267,618	△ 49,675
図書	1,123,751	1,121,782	1,969
特定資産	36,901,184	36,497,995	403,189
第3号基本金引当特定資産	29,839,000	29,839,000	0
退職金引当特定資産	2,886,898	2,718,661	168,237
減価償却引当特定資産	3,555,718	3,354,829	200,889
その他の固定資産	420,638	484,667	△ 64,029
流動資産	3,874,992	3,670,093	204,899
現金・預金	3,358,475	3,059,177	299,298
未収入金	495,914	592,171	△ 96,257
資産の部合計	59,225,158	59,034,786	190,372
固定負債	3,706,025	3,812,419	△ 106,394
退職給与引当金	3,679,540	3,771,634	△ 92,094
流動負債	1,388,407	1,280,382	108,025
未払金	478,285	395,846	82,439
前受金	524,805	500,982	23,823
負債の部合計	5,094,432	5,092,802	1,630
基本金	73,922,391	73,949,740	△ 27,349
第1号基本金	43,539,391	43,566,740	△ 27,349
第3号基本金	29,839,000	29,839,000	0
第4号基本金	544,000	544,000	0
繰越収支差額	△ 19,791,665	△ 20,007,756	216,091
純資産の部合計	54,130,725	53,941,984	188,741
負債及び純資産の部合計	59,225,158	59,034,786	190,372

(2) 経年比較

①資金収支計算書項目



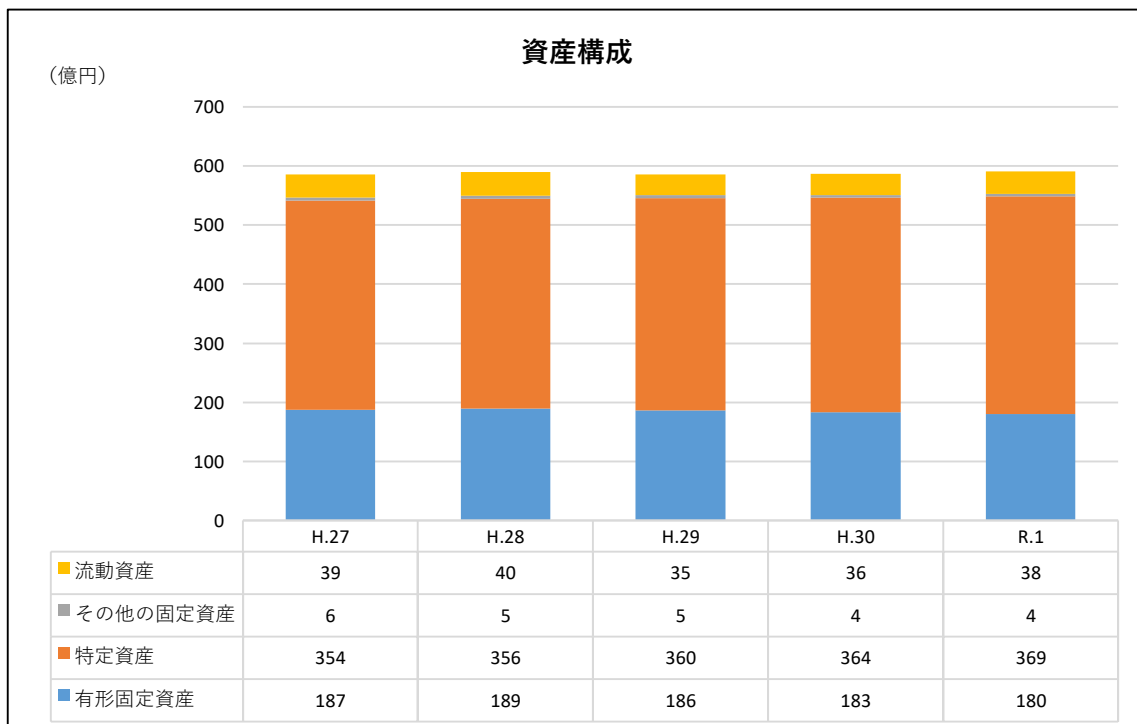
②事業活動収支計算書項目

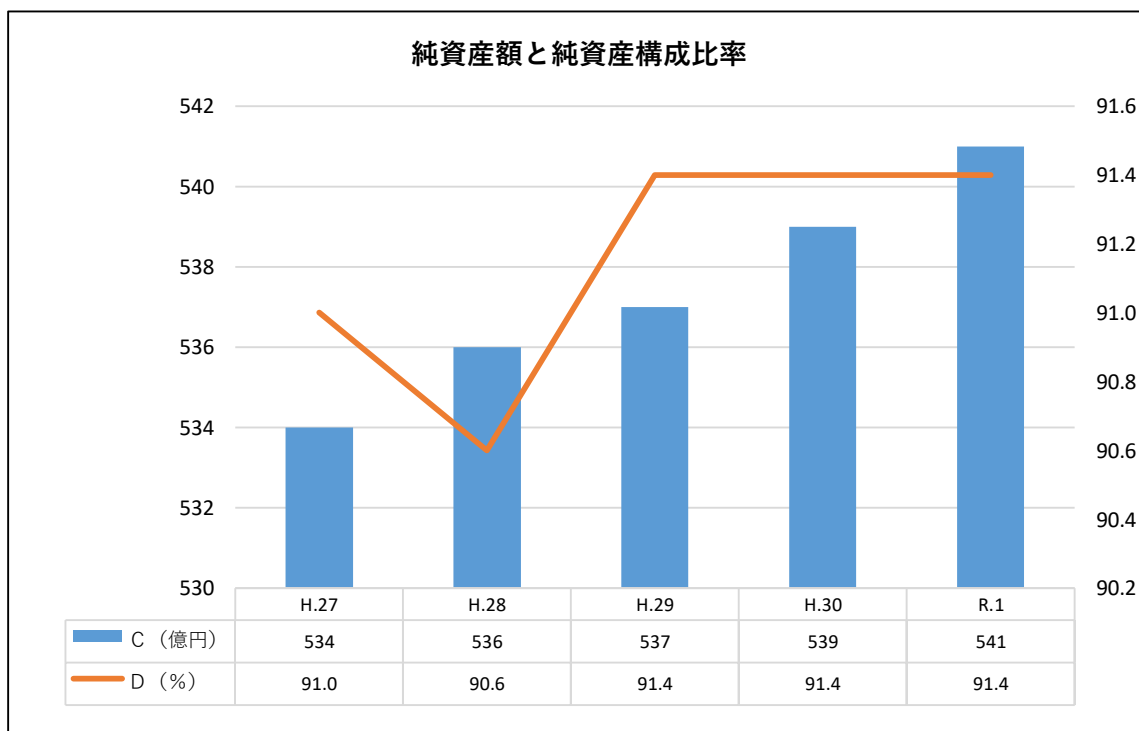
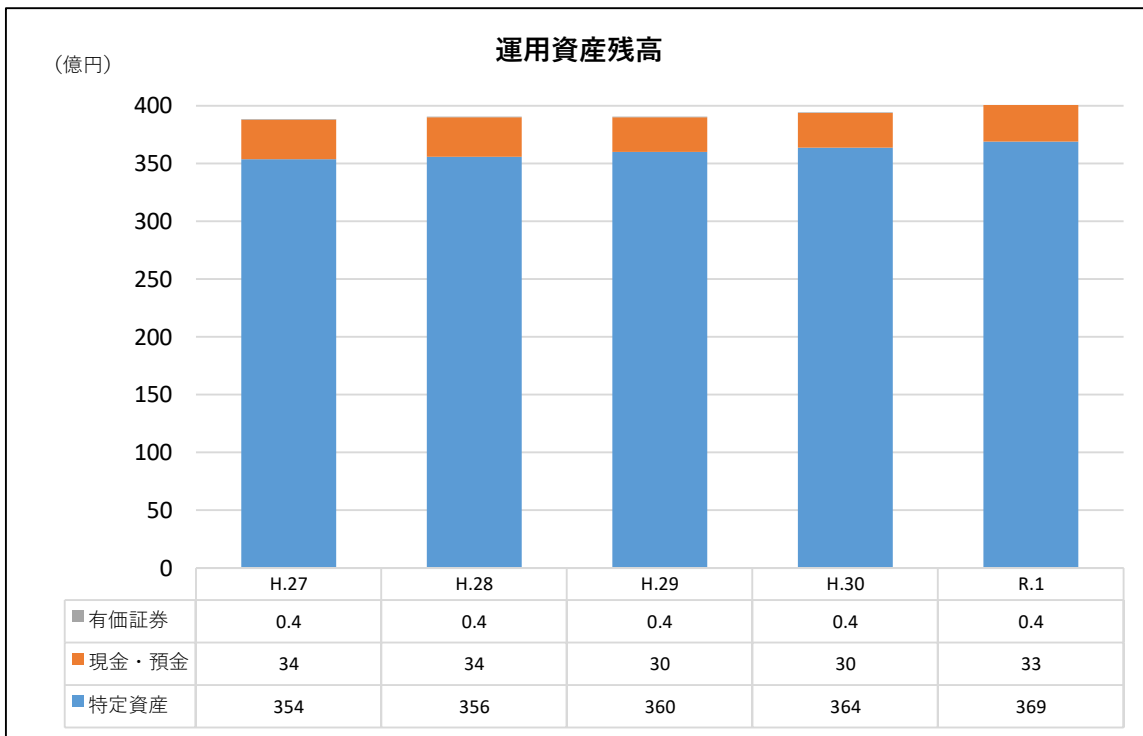


A：基本金組入前当年度収支差額

B：事業収支差額比率

③貸借対照表項目





C：純資産額

D：純資産構成比率

(3) 財務比率

①主な財務比率

項目	単位	H.27	H.28	H.29	H.30	R.1
固定資産構成比率	%	93.2	93.2	93.9	93.8	93.5
固定比率	%	102.4	102.9	102.8	102.6	102.3
流動比率	%	349.5	250.9	290.7	286.6	279.1
負債比率	%	9.8	10.4	9.5	9.4	9.4
内部留保資産比率	%	57.3	56.6	57.9	58.4	59.4
運用資産余裕比率	年	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1
純資産構成比率	%	91.0	90.6	91.4	91.4	91.4
人件費比率	%	54.8	55.5	55.6	54.7	53.6
教育研究経費比率	%	37.6	35.0	36.2	35.5	37.0
管理経費比率	%	7.2	7.1	7.0	6.7	7.0
事業活動収支差額比率	%	0.3	2.1	1.2	2.7	2.4
学生生徒等納付金比率	%	58.0	58.4	59.1	59.4	59.6
補助金比率	%	6.2	6.2	5.9	6.2	5.3
経常収支差額比率	%	0.4	2.4	1.1	3.0	2.4

②主な財務比率の内容説明

項目	内容説明
固定資産構成比率	資産構成のバランスをみるための指標
固定比率	固定資産に対しどの程度純資産が投下されているか評価する指標
流動比率	短期的な支払い能力を評価する指標（200%以上であれば優良）
負債比率	他人資金と自己資金の割合を評価する指標（低いほど良い）
内部留保資産比率	運用資産の蓄積度を評価する指標（高いほど良い）
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対し運用資産の蓄積度を表す指標（高いほど良い）
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標（高いほど良い）
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
教育研究経費比率	教育研究経費の対経常収入割合（収支均衡を失しない範囲で高いほど良い）
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額が占める割合
学生生徒等納付金比率	学納金の計上収入に占める割合（安定的推移が望ましい）
補助金比率	補助金の事業活動収入に占める割合
経常収支差額比率	形状的な収支バランスを表す割合